

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2017-510218

(P2017-510218A)

(43) 公表日 平成29年4月6日(2017.4.6)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
HO4W 24/10 (2009.01)	HO4W 24/10	5K034
HO4L 29/06 (2006.01)	HO4L 13/00 305D	5K067

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 30 頁)

(21) 出願番号	特願2016-562056 (P2016-562056)	(71) 出願人	595020643
(86) (22) 出願日	平成27年1月6日 (2015.1.6)		クアルコム・インコーポレイテッド
(85) 翻訳文提出日	平成28年8月10日 (2016.8.10)		QUALCOMM INCORPORATED
(86) 国際出願番号	PCT/CN2015/070179		ED
(87) 国際公開番号	W02015/103965		アメリカ合衆国、カリフォルニア州 92
(87) 国際公開日	平成27年7月16日 (2015.7.16)		121-1714、サン・ディエゴ、モア
(31) 優先権主張番号	PCT/CN2014/070233		ハウス・ドライブ 5775
(32) 優先日	平成26年1月7日 (2014.1.7)	(74) 代理人	100108855
(33) 優先権主張国	中国 (CN)		弁理士 蔵田 昌俊
(31) 優先権主張番号	PCT/CN2014/071952	(74) 代理人	100109830
(32) 優先日	平成26年2月11日 (2014.2.11)		弁理士 福原 淑弘
(33) 優先権主張国	中国 (CN)	(74) 代理人	100158805
			弁理士 井関 守三
		(74) 代理人	100112807
			弁理士 岡田 貴志

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 複数のサブフレームセットのCSIフィードバック

## (57) 【要約】

本開示のいくつかの態様は、たとえば、発展型干渉管理トラフィック適応 (eIMTA) をサポートすることが可能なUEについてのチャネル状態情報 (CSI) フィードバックを報告するための技法および方法に関する。

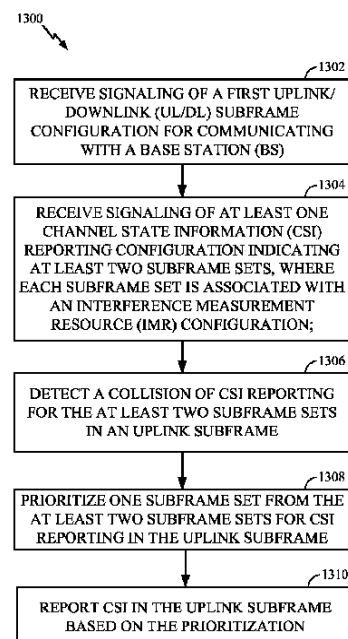


FIG. 13

**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

ユーザ機器（UE）によるワイヤレス通信のための方法であって、

基地局（BS）と通信するための第 1 のアップリンク / ダウンリンク（UL / DL）サブフレーム構成のシグナリングを受信することと、

少なくとも 2 つのサブフレームセットを示す少なくとも 1 つのチャネル状態情報（CSI）報告構成のシグナリングを受信することと、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース（IMR）構成に関連する、

アップリンクサブフレーム中の前記少なくとも 2 つのサブフレームセットについての CSI 報告の衝突を検出することと、

前記アップリンクサブフレーム中の CSI 報告のために前記少なくとも 2 つのサブフレームセットからの 1 つのサブフレームセットに優先度を付けることと、

前記優先度付けに基づいて前記アップリンクサブフレーム中で CSI を報告することとを備える、方法。

10

**【請求項 2】**

前記少なくとも 2 つのサブフレームセットが、同じ CSI プロセスに関連する、請求項 1 に記載の方法。

**【請求項 3】**

前記アップリンクサブフレーム中の衝突の下での前記サブフレームセットの中で、最も低く設定されたサブフレームセットインデックスをもつサブフレームセットが、より高い優先度を与えられる、請求項 1 に記載の方法。

20

**【請求項 4】**

前記 CSI 報告構成が、1 つまたは複数のコンポーネントキャリアのための 1 つまたは複数の CSI プロセスからなり、CSI 報告の前記優先度付けがさらに、CSI 報告タイプ、CSI プロセスインデックス、またはコンポーネントキャリアインデックスのうちの少なくとも 1 つに基づく、請求項 1 に記載の方法。

**【請求項 5】**

前記 CSI 報告が周期的 CSI 報告タイプである、請求項 1 に記載の方法。

**【請求項 6】**

前記第 1 の UL / DL サブフレーム構成が、システム情報ブロック（SIB）を介してシグナリングされる、請求項 1 に記載の方法。

30

**【請求項 7】**

前記第 1 の UL / DL サブフレーム構成よりも動的である第 2 の UL / DL サブフレーム構成を示す指示を受信すること  
をさらに備える、請求項 1 に記載の方法。

**【請求項 8】**

前記衝突を前記検出することが、

前記動的にシグナリングされた第 2 の UL / DL サブフレーム構成に基づいて前記 CSI 報告のためのダウンリンク参照サブフレームを決定すること  
を備える、請求項 7 に記載の方法。

40

**【請求項 9】**

前記ダウンリンク参照サブフレームがアップリンクサブフレームであると決定することと、

前記衝突の前記検出に応答して CSI 報告を変更することと、ここで、前記変更することが、古いまたは範囲外のうちの少なくとも 1 つである値をもつ測定報告を送ること、あるいは CSI 報告を省略することのうちの少なくとも 1 つを備える、  
を備える、請求項 8 に記載の方法。

**【請求項 10】**

少なくとも 2 つの IMR に対応する干渉測定リソースは、前記少なくとも 2 つの IMR が周期的に発生するサブフレームに限定されるという制約を受けない、請求項 1 に記載の

50

方法。

【請求項 1 1】

前記第 1 の U L / D L サブフレーム構成が、システム情報ブロック ( S I B ) を介してシグナリングされ、

前記少なくとも 2 つの I M R 中の第 1 の I M R と第 2 の I M R とのうちの少なくとも 1 つが、前記第 1 の U L / D L サブフレーム構成による D L サブフレーム内のみにあり、

前記少なくとも 2 つの I M R 中の前記第 1 の I M R と前記第 2 の I M R とのうちの少なくとも 1 つが、前記第 1 の U L / D L サブフレーム構成において D L サブフレームでなかった D L サブフレーム中で前記制約を受けない、

請求項 1 0 に記載の方法。

10

【請求項 1 2】

前記少なくとも 2 つの I M R 中の前記第 1 の I M R と前記第 2 の I M R とのうちの前記少なくとも 1 つが、最低サブフレームセットインデックスに関連する前記第 1 の U L / D L サブフレーム構成による前記 D L サブフレーム内のみにある、請求項 1 1 に記載の方法

。

【請求項 1 3】

基地局 ( B S ) と通信するための第 1 のアップリンク / ダウンリンク ( U L / D L ) サブフレーム構成のシグナリングを受信することと、

少なくとも 2 つのサブフレームセットを示す少なくとも 1 つのチャネル状態情報 ( C S I ) 報告構成のシグナリングを受信することと、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース ( I M R ) 構成に関連する、

20

アップリンクサブフレーム中の前記少なくとも 2 つのサブフレームセットについての C S I 報告の衝突を検出することと、

前記アップリンクサブフレーム中の C S I 報告のために前記少なくとも 2 つのサブフレームセットからの 1 つのサブフレームセットに優先度を付けることと、

前記優先度付けに基づいて前記アップリンクサブフレーム中で C S I を報告することとを行うように構成された少なくとも 1 つのプロセッサと、

前記少なくとも 1 つのプロセッサに結合されたメモリとを備える、ワイヤレス通信のための装置。

【請求項 1 4】

30

前記少なくとも 2 つのサブフレームセットが、同じ C S I プロセスに関連する、請求項 1 3 に記載の装置。

【請求項 1 5】

前記アップリンクサブフレーム中の衝突の下での前記サブフレームセットの中で、最も低く設定されたサブフレームセットインデックスをもつサブフレームセットが、より高い優先度を与えられる、請求項 1 3 に記載の装置。

【請求項 1 6】

前記 C S I 報告構成が、1 つまたは複数のコンポーネントキャリアのための 1 つまたは複数の C S I プロセスからなり、C S I 報告の前記優先度付けがさらに、C S I 報告タイプ、C S I プロセスインデックス、またはコンポーネントキャリアインデックスのうちの少なくとも 1 つに基づく、請求項 1 3 に記載の装置。

40

【請求項 1 7】

前記 C S I 報告が周期的 C S I 報告タイプである、請求項 1 3 に記載の装置。

【請求項 1 8】

前記第 1 の U L / D L サブフレーム構成が、システム情報ブロック ( S I B ) を介してシグナリングされる、請求項 1 3 に記載の装置。

【請求項 1 9】

前記少なくとも 1 つのプロセッサが、

前記第 1 の U L / D L サブフレーム構成よりも動的である第 2 の U L / D L サブフレーム構成を示す指示を受信する

50

ようにさらに構成された、請求項 13 に記載の装置。

【請求項 20】

衝突を検出するように構成された前記少なくとも 1 つのプロセッサが、前記動的にシグナリングされた第 2 の UL / DL サブフレーム構成に基づいて前記 CSI 報告のためのダウンリンク参照サブフレームを決定する、請求項 19 に記載の装置。

【請求項 21】

ダウンリンク参照サブフレームを決定するように構成された前記少なくとも 1 つのプロセッサは、前記ダウンリンク参照サブフレームがアップリンクサブフレームであると決定し、前記衝突の前記検出に応答して CSI 報告を変更し、ここにおいて、CSI 報告を変更するように構成された前記少なくとも 1 つのプロセッサが、古いまたは範囲外のうちの少なくとも 1 つである値をもつ測定報告を送るか、あるいは CSI 報告を省略するように構成された、請求項 20 に記載の装置。

10

【請求項 22】

少なくとも 2 つの IMR に対応する干渉測定リソースは、前記少なくとも 2 つの IMR が周期的に発生するサブフレームに限定されるという制約を受けない、請求項 13 に記載の装置。

【請求項 23】

前記第 1 の UL / DL サブフレーム構成が、システム情報ブロック (SIB) を介してシグナリングされ、

前記少なくとも 2 つの IMR 中の第 1 の IMR と第 2 の IMR とのうちの少なくとも 1 つが、前記第 1 の UL / DL サブフレーム構成による DL サブフレーム内のみにあり、

20

前記少なくとも 2 つの IMR 中の前記第 1 の IMR と前記第 2 の IMR とのうちの少なくとも 1 つが、前記第 1 の UL / DL サブフレーム構成において DL サブフレームでなかった DL サブフレーム中で前記制約を受けない、

請求項 22 に記載の装置。

【請求項 24】

前記少なくとも 2 つの IMR 中の前記第 1 の IMR と前記第 2 の IMR とのうちの前記少なくとも 1 つが、最低サブフレームセットインデックスに関連する前記第 1 の UL / DL サブフレーム構成による前記 DL サブフレーム内のみにある、請求項 23 に記載の装置。

30

【請求項 25】

基地局 (BS) と通信するための第 1 のアップリンク / ダウンリンク (UL / DL) サブフレーム構成のシグナリングを受信するための手段と、

少なくとも 2 つのサブフレームセットを示す少なくとも 1 つのチャネル状態情報 (CSI) 報告構成のシグナリングを受信するための手段と、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース (IMR) 構成に関連する、

アップリンクサブフレーム中の前記少なくとも 2 つのサブフレームセットについての CSI 報告の衝突を検出するための手段と、

前記アップリンクサブフレーム中の CSI 報告のために前記少なくとも 2 つのサブフレームセットからの 1 つのサブフレームセットに優先度を付けるための手段と、

40

前記優先度付けに基づいて前記アップリンクサブフレーム中で CSI を報告するための手段と

を備える、ワイヤレス通信のための装置。

【請求項 26】

記憶された命令を備える非一時的コンピュータ可読媒体であって、前記命令は、

基地局 (BS) と通信するための第 1 のアップリンク / ダウンリンク (UL / DL) サブフレーム構成のシグナリングを受信することと、

少なくとも 2 つのサブフレームセットを示す少なくとも 1 つのチャネル状態情報 (CSI) 報告構成のシグナリングを受信することと、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース (IMR) 構成に関連する、

50

アップリンクサブフレーム中の前記少なくとも2つのサブフレームセットについてのC S I 報告の衝突を検出することと、

前記アップリンクサブフレーム中のC S I 報告のために前記少なくとも2つのサブフレームセットからの1つのサブフレームセットに優先度を付けることと、

前記優先度付けに基づいて前記アップリンクサブフレーム中でC S I を報告することとを行うための命令を備える、非一時的コンピュータ可読媒体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

優先権の主張

[0001]本特許出願は、両方とも本出願の譲受人に譲渡され、参照により本明細書に明確に組み込まれる、2014年1月7日に提出された国際出願第PCT/CN2014/070233号、および2014年2月11日に提出された国際出願第PCT/CN2014/071952号の優先権を主張する。

【0002】

[0002]本開示は、一般にワイヤレス通信に関し、より詳細には、複数のサブフレームセットを使用してチャネル状態情報(C S I : channel state information)フィードバックを与えるための方法および装置に関する。

【背景技術】

【0003】

[0003]ワイヤレス通信システムは、電話、ビデオ、データ、メッセージング、およびブロードキャストなど、様々な電気通信サービスを提供するために広く展開されている。典型的なワイヤレス通信システムは、利用可能なシステムリソース(たとえば、帯域幅、送信電力)を共有することによって複数のユーザとの通信をサポートすることが可能な多元接続技術を採用し得る。そのような多元接続技術の例としては、符号分割多元接続(C D M A)システム、時分割多元接続(T D M A)システム、周波数分割多元接続(F D M A)システム、直交周波数分割多元接続(O F D M A)システム、シングルキャリア周波数分割多元接続(S C - F D M A)システム、および時分割同期符号分割多元接続(T D - S C D M A)システムがある。

【0004】

[0004]これらの多元接続技術は、異なるワイヤレスデバイスが都市、国家、地域、さらには地球規模で通信することを可能にする共通プロトコルを与えるために様々な電気通信規格において採用されている。新生の電気通信規格の一例はロングタームエボリューション(L T E (登録商標))である。L T E / L T E アドバンスド(LTE-Advanced)は、第3世代パートナーシッププロジェクト(3 G P P (登録商標) : Third Generation Partnership Project)によって公表されたユニバーサル・モバイル・テレコミュニケーションズ・システム(U M T S : Universal Mobile Telecommunications System)モバイル規格の拡張のセットである。L T E / L T E アドバンスドは、スペクトル効率を改善し、コストを下げ、サービスを改善し、新しいスペクトルを利用し、また、ダウンリンク(D L)上ではO F D M Aを使用し、アップリンク(U L)上ではS C - F D M Aを使用し、多入力多出力(M I M O)アンテナ技術を使用して他のオープン規格とより良く統合することによってモバイルブロードバンドインターネットアクセスをより良くサポートするように設計されている。しかしながら、モバイルブロードバンドアクセスに対する需要が増大し続けるにつれて、L T E 技術のさらなる改善が必要である。好ましくは、これらの改善は、他の多元接続技術と、これらの技術を採用する電気通信規格とに適用可能であるべきである。

【発明の概要】

【0005】

[0005]本開示のいくつかの態様は、ユーザ機器によるワイヤレス通信のための方法を提供する。本方法は、概して、基地局(B S)と通信するための第1のアップリンク/ダウ

10

20

30

40

50

ンリンク（UL/DL）サブフレーム構成のシグナリングを受信することと、少なくとも2つのサブフレームセットを示す少なくとも1つのチャネル状態情報（CSI：channel state information）報告構成（reporting configuration）のシグナリングを受信することと、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース（IMR：interference measurement resource）構成に関連する、アップリンクサブフレーム中の少なくとも2つのサブフレームセットについてのCSI報告の衝突を検出することと、アップリンクサブフレーム中のCSI報告のために少なくとも2つのサブフレームセットからの1つのサブフレームセットに優先度を付けること（prioritizing）と、優先度付けに基づいてアップリンクサブフレーム中でCSIを報告することとを含む。

【0006】

10

[0006]本開示のいくつかの態様は、ワイヤレス通信のための装置を提供する。本装置は、基地局（BS）と通信するための第1のアップリンク/ダウンリンク（UL/DL）サブフレーム構成のシグナリングを受信することと、少なくとも2つのサブフレームセットを示す少なくとも1つのチャネル状態情報（CSI）報告構成のシグナリングを受信することと、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース（IMR）構成に関連する、アップリンクサブフレーム中の少なくとも2つのサブフレームセットについてのCSI報告の衝突を検出することと、アップリンクサブフレーム中のCSI報告のために少なくとも2つのサブフレームセットからの1つのサブフレームセットに優先度を付けることと、優先度付けに基づいてアップリンクサブフレーム中でCSIを報告することとを行うように構成された少なくとも1つのプロセッサと、少なくとも1つのプロセッサに結合されたメモリとを含み得る。

20

【0007】

[0007]本開示のいくつかの態様は、ワイヤレス通信のための装置を提供する。本装置は、概して、基地局（BS）と通信するための第1のアップリンク/ダウンリンク（UL/DL）サブフレーム構成のシグナリングを受信するための手段と、少なくとも2つのサブフレームセットを示す少なくとも1つのチャネル状態情報（CSI）報告構成のシグナリングを受信するための手段と、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース（IMR）構成に関連する、アップリンクサブフレーム中の少なくとも2つのサブフレームセットについてのCSI報告の衝突を検出するための手段と、アップリンクサブフレーム中のCSI報告のために少なくとも2つのサブフレームセットからの1つのサブフレームセットに優先度を付けるための手段と、優先度付けに基づいてアップリンクサブフレーム中でCSIを報告するための手段とを含む。

30

【0008】

[0008]本開示のいくつかの態様は、基地局（BS）と通信するための第1のアップリンク/ダウンリンク（UL/DL）サブフレーム構成のシグナリングを受信することと、少なくとも2つのサブフレームセットを示す少なくとも1つのチャネル状態情報（CSI）報告構成のシグナリングを受信することと、ここで、各サブフレームセットが干渉測定リソース（IMR）構成に関連する、アップリンクサブフレーム中の少なくとも2つのサブフレームセットについてのCSI報告の衝突を検出することと、アップリンクサブフレーム中のCSI報告のために少なくとも2つのサブフレームセットからの1つのサブフレームセットに優先度を付けることと、優先度付けに基づいてアップリンクサブフレーム中でCSIを報告することとを行うための命令を備える非一時的コンピュータ可読媒体を提供する。

40

【0009】

[0009]態様は、概して、添付の図面に関して本明細書で実質的に説明し、添付の図面によって示されるように、方法、装置、システム、コンピュータプログラム製品、および処理システムを含む。「LTE」は、概して、LTEおよびLTEアドバンスド（LTE-A）を指す。

【図面の簡単な説明】

【0010】

50

【図 1】[0010]ネットワークアーキテクチャの一例を示す図。

【図 2】[0011]アクセスネットワークの一例を示す図。

【図 3】[0012]LTEにおけるDLフレーム構造の一例を示す図。

【図 4】[0013]LTEにおけるULフレーム構造の一例を示す図。

【図 5】[0014]ユーザプレーンおよび制御プレーンのための無線プロトコルアーキテクチャの一例を示す図。

【図 6】[0015]本開示のいくつかの態様による、アクセスネットワーク中の発展型ノードBおよびユーザ機器の一例を示す図。

【図 7】[0016]アップリンク/ダウンリンクサブフレーム構成のリストを示す図。

【図 8】[0017]例示的なサブフレームフレームフォーマットを示す図。

10

【図 9】[0018]本開示のいくつかの態様による、異なるIMR配置シナリオ(different IMR placement scenarios)を示す図。

【図 10】[0019]本開示のいくつかの態様による、ワイヤレス通信のための例示的な動作1000を示す図。

【図 11】[0020]本開示のいくつかの態様による、ワイヤレス通信のための例示的な動作1100を示す図。

【図 12】[0021]本開示のいくつかの態様による、フレキシブルサブフレーム中にIMRを配置することを示す図。

【図 13】[0022]本開示のいくつかの態様による、ユーザ機器(UE)によるワイヤレス通信のための例示的な動作1300を示す図。

20

【図 14】[0023]本開示のいくつかの態様による、ULサブフレーム中のCSI報告のための2つのサブフレームセット間の衝突の一例を示す図。

【図 15】[0024]本開示のいくつかの態様による、測定のための有効なDLサブフレームが存在しないときに報告するためのオプションを示す図。

【図 16】[0025]本開示のいくつかの態様による、動的サブフレーム再構成によりIMRサブフレームがDLからULにどのように変化し得るかを示す図。

【詳細な説明】

【0011】

[0026]場合によっては、たとえば、実際のトラフィックニーズに基づいて、および/または干渉を管理するのを助けるように、時分割複信(TDD)ダウンリンク/アップリンク(DL/UL)サブフレーム構成が動的に適応される。この概念は、トラフィック適応のための発展型干渉管理(eIMTA: evolved interference management for traffic adaption)と呼ばれることがある。

30

【0012】

[0027]しかしながら、場合によっては、この適応は、チャネル状態情報(CSI)測定および報告において問題を生じ得る。一例として、場合によっては、動的再構成により、CSIを報告する際に使用されるリソースをもつサブフレームがDLからULに変化し得る。その結果、UEは、報告するのに有効な測定値を有しないことがある。本開示の態様は、動的サブフレーム再構成をサポートすることが可能なUEについてのCSI測定およびCSI報告に関するそのような問題に対処するための技法を提供する。

40

【0013】

[0028]添付の図面に関して以下に示す詳細な説明は、様々な構成を説明するものであり、本明細書で説明する概念が実施され得る唯一の構成を表すものではない。詳細な説明は、様々な概念の完全な理解を与えるための具体的な詳細を含む。ただし、これらの概念はこれらの具体的な詳細なしに実施され得ることが当業者には明らかであろう。いくつかの例では、そのような概念を不明瞭にしないように、よく知られている構造および構成要素をブロック図の形式で示す。

【0014】

[0029]次に、様々な装置および方法に関して電気通信システムのいくつかの態様を提示する。これらの装置および方法について、以下の詳細な説明において説明し、「要素」

50

と総称される) 様々なブロック、モジュール、構成要素、回路、ステップ、プロセス、アルゴリズムなどによって添付の図面に示す。これらの要素は、ハードウェア、ソフトウェア、またはそれらの組合せを使用して実装され得る。そのような要素がハードウェアとして実装されるか、ソフトウェアとして実装されるかは、特定の適用例および全体的なシステムに課される設計制約に依存する。

#### 【0015】

[0030] 例として、要素、または要素の任意の部分、または要素の任意の組合せは、1つまたは複数のプロセッサを含む「処理システム」を用いて実装され得る。プロセッサの例としては、マイクロプロセッサ、マイクロコントローラ、デジタル信号プロセッサ(DSP)、フィールドプログラマブルゲートアレイ(FPGA)、プログラマブル論理デバイス(PLD)、状態機械、ゲート論理、個別ハードウェア回路、および本開示全体にわたって説明する様々な機能を実行するように構成された他の好適なハードウェアがある。処理システム中の1つまたは複数のプロセッサはソフトウェアを実行し得る。ソフトウェアは、ソフトウェア/ファームウェア、ミドルウェア、マイクロコード、ハードウェア記述言語などの名称にかかわらず、命令、命令セット、コード、コードセグメント、プログラムコード、プログラム、サブプログラム、ソフトウェアモジュール、アプリケーション、ソフトウェアアプリケーション、ソフトウェアパッケージ、ファームウェア、ルーチン、サブルーチン、オブジェクト、実行ファイル、実行スレッド、プロシージャ、関数などを意味すると広く解釈されたい。

#### 【0016】

[0031] したがって、1つまたは複数の例示的な実施形態では、説明する機能は、ハードウェア、ソフトウェア、またはそれらの組合せで実装され得る。ソフトウェアで実装される場合、機能は、コンピュータ可読媒体上に記憶されるか、あるいはコンピュータ可読媒体上に1つまたは複数の命令またはコードとして符号化され得る。コンピュータ可読媒体はコンピュータ記憶媒体を含む。記憶媒体は、コンピュータによってアクセスされ得る任意の利用可能な媒体であり得る。限定ではなく例として、そのようなコンピュータ可読媒体は、RAM、ROM、EEPROM(登録商標)、PCM(相変化メモリ(phase change memory))、フラッシュメモリ、CD-ROMまたは他の光ディスクストレージ、磁気ディスクストレージ、または他の磁気ストレージデバイス、あるいは命令またはデータ構造の形態の所望のプログラムコードを搬送または記憶するために使用され得、コンピュータによってアクセスされ得る、任意の他の媒体を備えることができる。本明細書で使用するディスク(disk)およびディスク(disc)は、コンパクトディスク(disc)(CD)、レーザーディスク(登録商標)(disc)、光ディスク(disc)、デジタル多用途ディスク(disc)(DVD)、フロッピー(登録商標)ディスク(disk)、およびBlu-ray(登録商標)ディスク(disc)を含み、ディスク(disk)は通常、データを磁氣的に再生し、ディスク(disc)は、データをレーザーで光学的に再生する。上記の組合せもコンピュータ可読媒体の範囲内に含まれるべきである。

#### 【0017】

例示的なワイヤレスネットワーク

[0032] 図1に、本開示の態様が実行され得るワイヤレス通信ネットワーク100(たとえば、LTEネットワーク)を示す。たとえば、UE102は、eIMTA-LTEベースの通信の場合のCSI報告および測定において発生する衝突に対処するために、本明細書で説明する技法を利用し得る。

#### 【0018】

[0033] ワイヤレス通信ネットワーク100は発展型パケットシステム(EPS: Evolved Packet System)100と呼ばれることがある。EPS100は、1つまたは複数のユーザ機器(UE)102と、発展型UMTS地上無線アクセスネットワーク(E-UTRAN: Evolved UMTS Terrestrial Radio Access Network)104と、発展型パケットコア(EPC: Evolved Packet Core)110と、ホーム加入者サーバ(HSS: Home Subscriber Server)120と、事業者のIPサービス122とを含み得る。EPSは他のア



クセスネットワークと相互接続することができるが、簡単のために、それらのエンティティ/インターフェースは図示されていない。例示的な他のアクセスネットワークは、IP マルチメディアサブシステム (IMS : IP Multimedia Subsystem) PDN、インターネット PDN、管理 PDN (administrative PDN) (たとえば、プロビジョニング PDN (Provisioning PDN))、キャリア固有の PDN、事業者固有の PDN、および/または GPRS PDN を含み得る。図示のように、EPS はパケット交換サービスを提供するが、当業者なら容易に諒解するように、本開示全体にわたって提示する様々な概念は、回線交換サービスを提供するネットワークに拡張され得る。

#### 【0019】

[0034] E-UTRAN は、発展型ノード B (eNB) 106 と他の eNB 108 とを含む。eNB 106 は、UE 102 に対してユーザプレーンプロトコル終端と制御プレーンプロトコル終端とを与える。eNB 106 は、X2 インターフェース (たとえば、バックホール) を介して他の eNB 108 に接続され得る。eNB 106 は、基地局、トランシーバ基地局、無線基地局、無線トランシーバ、トランシーバ機能、基本サービスセット (BSS : basic service set)、拡張サービスセット (ESS : extended service set)、アクセスポイント、または何らかの他の好適な用語で呼ばれることもある。eNB 106 は、UE 102 のために EPC 110 へのアクセスポイントを与え得る。UE 102 の例としては、セルラーフォン、スマートフォン、セッション開始プロトコル (SIP : session initiation protocol) 電話、ラップトップ、携帯情報端末 (PDA)、衛星無線、全地球測位システム、マルチメディアデバイス、ビデオデバイス、デジタルオーディオプレーヤー (たとえば、MP3 プレーヤー)、カメラ、ゲーム機、タブレット、ネットブック、スマートブック、ウルトラブック (an ultrabook)、または任意の他の同様の機能デバイスがある。UE 102 は、当業者によって、移動局、加入者局、モバイルユニット、加入者ユニット、ワイヤレスユニット、リモートユニット、モバイルデバイス、ワイヤレスデバイス、ワイヤレス通信デバイス、リモートデバイス、モバイル加入者局、アクセス端末、モバイル端末、ワイヤレス端末、リモート端末、ハンドセット、ユーザエージェント、モバイルクライアント、クライアント、または何らかの他の好適な用語で呼ばれることもある。

#### 【0020】

[0035] eNB 106 は S1 インターフェースによって EPC 110 に接続される。EPC 110 は、モビリティ管理エンティティ (MME : Mobility Management Entity) 112 と、他の MME 114 と、サービングゲートウェイ 116 と、パケットデータネットワーク (PDN : Packet Data Network) ゲートウェイ 118 とを含む。MME 112 は、UE 102 と EPC 110 との間のシグナリングを処理する制御ノードである。概して、MME 112 はベアラおよび接続管理を行う。すべてのユーザ IP パケットはサービングゲートウェイ 116 を通して転送され、サービングゲートウェイ 116 自体は PDN ゲートウェイ 118 に接続される。PDN ゲートウェイ 118 は UE の IP アドレス割り振りならびに他の機能を与える。PDN ゲートウェイ 118 は事業者の IP サービス 122 に接続される。事業者の IP サービス 122 は、たとえば、インターネット、イントラネット、IP マルチメディアサブシステム (IMS)、および PS (パケット交換) ストリーミングサービス (PSS : PS Streaming Service) を含み得る。このようにして、UE 102 は、LTE ネットワークを通して PDN に結合され得る。

#### 【0021】

[0036] 図 2 は、本開示の態様が実行され得る、LTE ネットワークアーキテクチャにおけるアクセスネットワーク 200 の一例を示す図である。たとえば、UE 206 は、eIMTA-LTE ベースの通信の場合の CSI 報告および測定において発生する衝突に対処するために、本明細書で説明する技法を利用し得る。

#### 【0022】

[0037] 図示の例では、アクセスネットワーク 200 は、いくつかのセルラー領域 (セル) 202 に分割される。1 つまたは複数のより低い電力クラスの eNB 208 (one or m

10

20

30

40

50

ore lower power class eNBs 208) は、セル 202 のうちの 1 つまたは複数と重複するセルラ領域 210 を有し得る。より低い電力クラスの eNB 208 は、リモートラジオヘッド (RRH: remote radio head) と呼ばれることがある。より低い電力クラスの eNB 208 は、フェムトセル (たとえば、ホーム eNB (HeNB))、ピコセル、またはマイクロセルであり得る。マクロ eNB 204 は各々、それぞれのセル 202 に割り当てられ、セル 202 中のすべての UE 206 のために EPC 110 へのアクセスポイントを与えるように構成される。アクセスネットワーク 200 のこの例では集中コントローラはないが、代替構成では集中コントローラが使用され得る。eNB 204 は、無線ベアラ制御、承認制御、モビリティ制御、スケジューリング、セキュリティ、およびサービングゲートウェイ 116 への接続性を含む、すべての無線関係機能を担当する。ネットワーク 200 はまた、1 つまたは複数のリレー (図示せず) を含み得る。一適用例によれば、UE はリレーとして働き得る。

10

### 【0023】

[0038] アクセスネットワーク 200 によって採用される変調および多元接続方式は、展開されている特定の電気通信規格に応じて異なり得る。LTE 適用例では、周波数分割複信 (FDD: frequency division duplexing) と時分割複信 (TDD) の両方をサポートするために、OFDM が DL 上で使用され、SC-FDMA が UL 上で使用される。当業者が以下の詳細な説明から容易に諒解するように、本明細書で提示する様々な概念は LTE 適用例に好適である。ただし、これらの概念は、他の変調および多元接続技法を採用する他の電気通信規格に容易に拡張され得る。例として、これらの概念は、エボリューションデータオブティマイズド (EV-DO: Evolution-Data Optimized) またはウルトラモバイルブロードバンド (UMB) に拡張され得る。EV-DO および UMB は、CDMA 2000 規格ファミリーの一部として第 3 世代パートナーシッププロジェクト 2 (3GPP 2: 3rd Generation Partnership Project 2) によって公表されたエアインターフェース規格であり、移動局へのブロードバンドインターネットアクセスを提供するために CDMA を採用する。これらの概念はまた、広帯域 CDMA (W-CDMA (登録商標)) と TD-SCDMA などの CDMA の他の変形態とを採用するユニバーサル地上無線アクセス (UTRA: Universal Terrestrial Radio Access)、TDMA を採用するモバイル通信用グローバルシステム (GSM (登録商標): Global System for Mobile Communications)、ならびに、OFDMA を採用する、発展型 UTRA (E-UTRA: Evolved UTRA)、ウルトラモバイルブロードバンド (UMB)、IEEE 802.11 (Wi-Fi (登録商標))、IEEE 802.16 (WiMAX (登録商標))、IEEE 802.20、および Flash-OFDM、に拡張され得る。UTRA、E-UTRA、UMTS、LTE および GSM は 3GPP (登録商標) 団体からの文書に記載されている。CDMA 2000 および UMB は 3GPP 2 団体からの文書に記載されている。採用される実際のワイヤレス通信規格および多元接続技術は、特定の適用例およびシステムに課される全体的な設計制約に依存することになる。

20

30

### 【0024】

[0039] eNB 204 は、MIMO 技術をサポートする複数のアンテナを有し得る。MIMO 技術の使用により、eNB 204 は、空間多重化、ビームフォーミング、および送信ダイバーシティをサポートするために空間領域を活用することが可能になる。空間多重化は、データの異なるストリームを同じ周波数上で同時に送信するために使用され得る。データストリームは、データレートを増加させるために単一の UE 206 に送信されるか、または全体的なシステム容量を増加させるために複数の UE 206 に送信され得る。これは、各データストリームを空間的にプリコーディングし (たとえば、振幅および位相のスケーリングを適用し)、次いで DL 上で複数の送信アンテナを通して空間的にプリコーディングされた各ストリームを送信することによって達成される。空間的にプリコーディングされたデータストリームは、異なる空間シグネチャとともに (1 つまたは複数の) UE 206 に到着し、これにより、(1 つまたは複数の) UE 206 の各々は、その UE 206 に宛てられた 1 つまたは複数のデータストリームを復元することが可能になる。UL 上

40

50

で、各UE 206は、空間的にプリコーディングされたデータストリームを送信し、これにより、eNB 204は、各空間的にプリコーディングされたデータストリームのソースを識別することが可能になる。

【0025】

[0040]空間多重化は、概して、チャネル状態が良好であるときに使用される。チャネル状態があまり良好でないときは、送信エネルギーを1つまたは複数の方向に集中させるためにビームフォーミングが使用され得る。これは、複数のアンテナを通した送信のためのデータを空間的にプリコーディングすることによって達成され得る。セルのエッジにおいて良好なカバレッジを達成するために、送信ダイバーシティと組み合わせてシングルストリームビームフォーミング送信が使用され得る。

【0026】

[0041]以下の詳細な説明では、アクセスネットワークの様々な態様について、DL上でOFDMをサポートするMIMOシステムに関して説明する。OFDMは、OFDMシンボル内のいくつかのサブキャリアを介してデータを変調するスペクトラム拡散(spread-spectrum)技法である。サブキャリアは正確な周波数で離間される。離間は、受信機がサブキャリアからデータを復元することを可能にする「直交性(orthogonality)」を与える。時間領域では、OFDMシンボル間干渉をなくす(combust inter-OFDM-symbol interference)ために、ガードインターバル(a guard interval)(たとえば、サイクリックプレフィックス)が各OFDMシンボルに追加され得る。ULは、高いピーク対平均電力比(PAPR: peak-to-average power ratio)を補償するために、SC-FDMAをDFT拡散OFDM信号の形態で使用し得る。

【0027】

[0042]図3は、LTEにおけるDLフレーム構造の一例を示す図300である。フレーム(10ms)は、0~9のインデックスをもつ等しいサイズの10個のサブフレームに分割され得る。各サブフレームは、2つの連続するタイムスロットを含み得る。2つのタイムスロットを表すためにリソースグリッドが使用され得、各タイムスロットはリソースブロックを含む。リソースグリッドは複数のリソース要素に分割される。LTEでは、リソースブロックは、周波数領域中に12個の連続するサブキャリアを含んでおり、各OFDMシンボル中のノーマルサイクリックプレフィックスについて、時間領域中に7個の連続するOFDMシンボル、または84個のリソース要素を含んでいる。拡張サイクリックプレフィックスについて、リソースブロックは、時間領域中に6個の連続するOFDMシンボルを含んでおり、72個のリソース要素を有する。R302、R304として示されるリソース要素のいくつかはDL基準信号(DL-RS: DL reference signal)を含む。DL-RSは、(共通RSと呼ばれることもある)セル固有RS(CRS: Cell-specific RS)302と、UE固有RS(UE-RS: UE-specific RS)304とを含む。UE-RS304は、対応する物理DL共有チャネル(PDSCH: physical DL shared channel)がマッピングされるリソースブロック上のみで送信される。各リソース要素によって搬送されるビット数は変調方式に依存する。したがって、UEが受信するリソースブロックが多いほど、また変調方式が高いほど、UEのためのデータレートは高くなる。

【0028】

[0043]LTEでは、eNBは、eNB中の各セルについて1次同期信号(PSS: primary synchronization signal)と2次同期信号(SSS: secondary synchronization signal)とを送り得る。1次同期信号および2次同期信号は、それぞれ、ノーマルサイクリックプレフィックス(CP: cyclic prefix)をもつ各無線フレームのサブフレーム0および5の各々中のシンボル期間6および5において送られ得る。同期信号は、セル検出および捕捉のためにUEによって使用され得る。eNBは、サブフレーム0のスロット1中のシンボル期間0~3において物理ブロードキャストチャネル(PBCH: Physical Broadcast Channel)を送り得る。PBCHはあるシステム情報を搬送し得る。

【0029】

[0044]eNBは、各サブフレームの最初のシンボル期間において物理制御フォーマット

10

20

30

40

50

インジケータチャネル ( P C F I C H : Physical Control Format Indicator Channel ) を送り得る。P C F I C H は、制御チャネルのために使用されるシンボル期間の数 ( M ) を搬送し得、ただし、M は、1、2 または 3 に等しくなり得、サブフレームごとに变化し得る。M はまた、たとえば、リソースブロックが 10 個未満である、小さいシステム帯域幅では 4 に等しくなり得る。e N B は、各サブフレームの最初の M 個のシンボル期間において物理 H A R Q インジケータチャネル ( P H I C H : Physical HARQ Indicator Channel ) と物理ダウンリンク制御チャネル ( P D C C H : Physical Downlink Control Channel ) とを送り得る。P H I C H は、ハイブリッド自動再送要求 ( H A R Q : hybrid automatic repeat request ) をサポートするための情報を搬送し得る。P D C C H は、U E のためのリソース割振りに関する情報と、ダウンリンクチャネルのための制御情報とを搬送し得る。e N B は、各サブフレームの残りのシンボル期間において物理ダウンリンク共有チャネル ( P D S C H ) を送り得る。P D S C H は、ダウンリンク上でのデータ送信のためにスケジュールされた U E のためのデータを搬送し得る。

10

20

30

40

50

#### 【 0 0 3 0 】

[0045] e N B は、e N B によって使用されるシステム帯域幅の中心 1 . 0 8 M H z において P S S、S S S、および P B C H を送り得る。e N B は、これらのチャネルが送られる各シンボル期間においてシステム帯域幅全体にわたって P C F I C H および P H I C H を送り得る。e N B は、システム帯域幅のいくつかの部分において U E のグループに P D C C H を送り得る。e N B は、システム帯域幅の特定の部分において特定の U E に P D S C H を送り得る。e N B は、すべての U E にブロードキャスト方式で P S S、S S S、P B C H、P C F I C H および P H I C H を送り得、特定の U E にユニキャスト方法で P D C C H を送り得、また特定の U E にユニキャスト方法で P D S C H を送り得る。

#### 【 0 0 3 1 】

[0046] 各シンボル期間においていくつかのリソース要素が利用可能であり得る。各リソース要素 ( R E : resource element ) は、1 つのシンボル期間において 1 つのサブキャリアをカバーし得、実数値または複素数値であり得る 1 つの変調シンボルを送るために使用され得る。各シンボル期間において基準信号のために使用されないリソース要素は、リソース要素グループ ( R E G : resource element group ) に構成され得る。各 R E G は、1 つのシンボル期間中に 4 つのリソース要素を含み得る。P C F I C H は、シンボル期間 0 において、周波数にわたってほぼ等しく離間され得る、4 つの R E G を占有し得る。P H I C H は、1 つまたは複数の構成可能なシンボル期間において、周波数にわたって拡散され得る、3 つの R E G を占有し得る。たとえば、P H I C H のための 3 つの R E G は、すべてシンボル期間 0 に属し得るか、またはシンボル期間 0、1、および 2 において拡散され得る。P D C C H は、たとえば、最初の M 個のシンボル期間において、利用可能な R E G から選択され得る、9、18、36、または 72 個の R E G を占有し得る。R E G のいくつかの組合せのみが P D C C H に対して可能にされ得る。本方法および装置の態様において、サブフレームは、2 つ以上の P D C C H を含み得る。

#### 【 0 0 3 2 】

[0047] U E は、P H I C H および P C F I C H のために使用される特定の R E G を知り得る。U E は、P D C C H のための R E G の様々な組合せを探索し得る。探索すべき組合せの数は、一般に、P D C C H に対して可能にされる組合せの数よりも少ない。e N B は、U E が探索することになる組合せのいずれかにおいて U E に P D C C H を送り得る。

#### 【 0 0 3 3 】

[0048] 図 4 は、L T E における U L フレーム構造の一例を示す図 4 0 0 である。U L のための利用可能なリソースブロックは、データセクションと制御セクションとに区分され得る。制御セクションは、システム帯域幅の 2 つのエッジにおいて形成され得、構成可能なサイズを有し得る。制御セクション中のリソースブロックは、制御情報を送信するために U E に割り当てられ得る。データセクションは、制御セクション中に含まれないすべてのリソースブロックを含み得る。U L フレーム構造は、単一の U E がデータセクション中の連続サブキャリアのすべてを割り当てられることを可能にし得る、連続サブキャリアを

含むデータセクションを生じる。

【 0 0 3 4 】

[0049] U E は、e N B に制御情報を送信するために、制御セクション中のリソースブロック 4 1 0 a、4 1 0 b を割り当てられ得る。U E は、e N B にデータを送信するために、データセクション中のリソースブロック 4 2 0 a、4 2 0 b をも割り当てられ得る。U E は、制御セクション中の割り当てられたリソースブロック上の物理 U L 制御チャネル ( P U C C H : physical UL control channel ) 中で制御情報を送信し得る。U E は、データセクション中の割り当てられたリソースブロック上の物理 U L 共有チャネル ( P U S C H : physical UL shared channel ) 中でデータのみまたはデータと制御情報の両方を送信し得る。U L 送信は、サブフレームの両方のスロットにわたり得、周波数上にわたってホッピングし得る。

10

【 0 0 3 5 】

[0050] 初期システムアクセスを実行し、物理ランダムアクセスチャネル ( P R A C H : physical random access channel ) 4 3 0 中で U L 同期を達成するために、リソースブロックのセットが使用され得る。P R A C H 4 3 0 は、ランダムシーケンスを搬送し、いかなる U L データ / シグナリングも搬送することができない。各ランダムアクセスプリアンブルは、6 つの連続するリソースブロックに対応する帯域幅を占有する。開始周波数はネットワークによって指定される。すなわち、ランダムアクセスプリアンブルの送信は、ある時間リソースおよび周波数リソースに制限される。周波数ホッピングは P R A C H にはない。P R A C H 試みは単一のサブフレーム ( 1 m s ) 中でまたは少数の連続サブフレームのシーケンス中で搬送され、U E はフレーム ( 1 0 m s ) ごとに単一の P R A C H 試みのみを行うことができる。

20

【 0 0 3 6 】

[0051] 図 5 は、L T E におけるユーザプレーンおよび制御プレーンのための無線プロトコルアーキテクチャの一例を示す図 5 0 0 である。U E および e N B のための無線プロトコルアーキテクチャは、レイヤ 1 と、レイヤ 2 と、レイヤ 3 との 3 つのレイヤとともに示されている。レイヤ 1 ( L 1 レイヤ ) は最下位レイヤであり、様々な物理レイヤ信号処理機能を実装する。L 1 レイヤを本明細書では物理レイヤ 5 0 6 と呼ぶ。レイヤ 2 ( L 2 レイヤ ) 5 0 8 は、物理レイヤ 5 0 6 の上にあり、物理レイヤ 5 0 6 を介した U E と e N B との間のリンクを担当する。

30

【 0 0 3 7 】

[0052] ユーザプレーンでは、L 2 レイヤ 5 0 8 は、ネットワーク側の e N B において終端される、媒体アクセス制御 ( M A C : media access control ) サブレイヤ 5 1 0 と、無線リンク制御 ( R L C : radio link control ) サブレイヤ 5 1 2 と、パケットデータコンバージェンスプロトコル ( P D C P : packet data convergence protocol ) 5 1 4 サブレイヤとを含む。図示されていないが、U E は、ネットワーク側の P D N ゲートウェイ 1 1 8 において終端されるネットワークレイヤ (たとえば、I P レイヤ) と、接続の他端 (たとえば、ファアエンド U E、サーバなど) において終端されるアプリケーションレイヤとを含めて L 2 レイヤ 5 0 8 の上にいくつかの上位レイヤを有し得る。

【 0 0 3 8 】

40

[0053] P D C P サブレイヤ 5 1 4 は、異なる無線ベアラと論理チャネルとの間の多重化を行う。P D C P サブレイヤ 5 1 4 はまた、無線送信オーバーヘッドを低減するための上位レイヤデータパケットのヘッダ圧縮と、データパケットを暗号化することによるセキュリティと、U E に対する e N B 間のハンドオーバーサポートとを与える。R L C サブレイヤ 5 1 2 は、上位レイヤデータパケットのセグメンテーションおよびリアセンブリと、紛失データパケットの再送信と、ハイブリッド自動再送要求 ( H A R Q ) による、順が狂った受信を補正するためのデータパケットの並べ替えとを行う。M A C サブレイヤ 5 1 0 は、論理チャネルとトランスポートチャネルとの間の多重化を行う。M A C サブレイヤ 5 1 0 はまた、U E の間で 1 つのセル内の様々な無線リソース (たとえば、リソースブロック) を割り振ることを担当する。M A C サブレイヤ 5 1 0 はまた H A R Q 動作を担当する。

50

## 【 0 0 3 9 】

[0054]制御プレーンでは、UEおよびeNBのための無線プロトコルアーキテクチャは、制御プレーンのためのヘッダ圧縮機能がないことを除いて、物理レイヤ506およびL2レイヤ508について実質的に同じである。制御プレーンはまた、レイヤ3（L3レイヤ）中に無線リソース制御（RRC：radio resource control）サブレイヤ516を含む。RRCサブレイヤ516は、無線リソース（すなわち、無線ベアラ）を取得することと、eNBとUEとの間のRRCシグナリングを使用して下位レイヤを構成することとを担当する。

## 【 0 0 4 0 】

[0055]図6は、本開示の態様が実行され得るアクセスネットワークにおいてUE650と通信しているeNB610のブロック図である。たとえば、UE650は、eIMTALLTEベースの通信の場合のCSI報告および測定において発生する衝突に対処するために、本明細書で説明する技法を利用し得る。

## 【 0 0 4 1 】

[0056]DLでは、コアネットワークからの上位レイヤパケットが、コントローラ/プロセッサ675に与えられる。コントローラ/プロセッサ675は、L2レイヤの機能を実装する。DLでは、コントローラ/プロセッサ675は、様々な優先度メトリックに基づいて、ヘッダ圧縮と、暗号化と、パケットのセグメンテーションおよび並べ替えと、論理チャネルとトランスポートチャネルとの間の多重化と、様々な優先度メトリックに基づくUE650への無線リソース割振りとを行う。コントローラ/プロセッサ675はまた、HARQ動作と、紛失パケットの再送信と、UE650へのシグナリングとを担当する。

## 【 0 0 4 2 】

[0057]TXプロセッサ616は、L1レイヤ（すなわち、物理レイヤ）のための様々な信号処理機能を実装する。信号処理機能は、UE650における前方誤り訂正（FEC：forward error correction）を容易にするためのコーディングおよびインターリーブと、様々な変調方式（たとえば、2位相シフトキーイング（BPSK：binary phase-shift keying）、4位相シフトキーイング（QPSK：quadrature phase-shift keying）、M位相シフトキーイング（M-P SK：M-phase-shift keying）、多値直交振幅変調（M-QAM：M-quadrature amplitude modulation））に基づいた信号コンスタレーションへのマッピングとを含む。コーディングされ、変調されたシンボルは、次いで、並列ストリームに分割される。各ストリームは、次いでOFDMサブキャリアにマッピングされ、時間領域および/または周波数領域中で基準信号（たとえば、パイロット）と多重化され、次いで逆高速フーリエ変換（IFFT：Inverse Fast Fourier Transform）を使用して互いに組み合わせられて、時間領域OFDMシンボルストリームを搬送する物理チャネルが生成される。OFDMストリームは、複数の空間ストリームを生成するために空間的にプリコーディングされる。チャネル推定器674からのチャネル推定値は、コーディングおよび変調方式を決定するために、ならびに空間処理のために使用され得る。チャネル推定値は、UE650によって送信される基準信号および/またはチャネル状態フィードバックから導出され得る。各空間ストリームは、次いで、別個の送信機618TXを介して異なるアンテナ620に与えられる。各送信機618TXは、送信のためにそれぞれの空間ストリームでRFキャリアを変調する。

## 【 0 0 4 3 】

[0058]UE650において、各受信機654RXは、そのそれぞれのアンテナ652を通して信号を受信する。各受信機654RXは、RFキャリア上に変調された情報を復元し、受信機（RX）プロセッサ656に情報を与える。RXプロセッサ656はL1レイヤの様々な信号処理機能を実装する。RXプロセッサ656は、UE650に宛てられた任意の空間ストリームを復元するために、情報に対して空間処理を実行する。複数の空間ストリームがUE650に宛てられた場合、それらはRXプロセッサ656によって単一のOFDMシンボルストリームに組み合わせられ得る。RXプロセッサ656は、次いで、高速フーリエ変換（FFT：Fast Fourier Transform）を使用してOFDMシンボルス

10

20

30

40

50

トリームを時間領域から周波数領域に変換する。周波数領域信号は、OFDM信号のサブキャリアごとに別々のOFDMシンボルストリームを備える。各サブキャリア上のシンボルと基準信号とは、eNB 610によって送信される、可能性が最も高い信号コンスタレーションポイントを決定することによって復元され、復調される。これらの軟判定は、チャネル推定器 658によって計算されるチャネル推定値に基づき得る。軟判定は、次いで、物理チャネル上でeNB 610によって最初に送信されたデータと制御信号とを復元するために復号され、デインターリーブされる。データおよび制御信号は、次いで、コントローラ/プロセッサ 659に与えられる。

【0044】

[0059]コントローラ/プロセッサ 659はL2レイヤを実装する。コントローラ/プロセッサは、プログラムコードとデータとを記憶するメモリ 660に関連付けられ得る。メモリ 660はコンピュータ可読媒体と呼ばれることがある。ULでは、制御/プロセッサ 659は、コアネットワークからの上位レイヤパケットを復元するために、トランスポートチャネルと論理チャネルとの間の多重分離 (demultiplexing) と、パケットリアセンブリと、解読 (deciphering) と、ヘッダ復元 (decompression) と、制御信号処理とを行う。上位レイヤパケットは、次いで、L2レイヤの上のすべてのプロトコルレイヤを表す、データシンク 662に与えられる。また、様々な制御信号がL3処理のためにデータシンク 662に与えられ得る。コントローラ/プロセッサ 659はまた、HARQ動作をサポートするために肯定応答 (ACK) および/または否定応答 (NACK) プロトコルを使用した誤り検出を担当する。

【0045】

[0060]ULでは、データソース 667は、コントローラ/プロセッサ 659に上位レイヤパケットを与えるために使用される。データソース 667は、L2レイヤの上のすべてのプロトコルレイヤを表す。eNB 610によるDL送信に関して説明した機能と同様に、コントローラ/プロセッサ 659は、ヘッダ圧縮と、暗号化と、パケットのセグメント化および並べ替えと、eNB 610による無線リソース割振りに基づいた論理チャネルとトランスポートチャネルとの間の多重化とを行うことによって、ユーザプレーンおよび制御プレーンのためのL2レイヤを実装する。コントローラ/プロセッサ 659はまた、HARQ動作と、紛失パケットの再送信と、eNB 610へのシグナリングとを担当する。

【0046】

[0061]eNB 610によって送信される基準信号またはフィードバックからの、チャネル推定器 658によって導出されるチャネル推定値は、適切なコーディングおよび変調方式を選択することと、空間処理を容易にすることとを行うために、TXプロセッサ 668によって使用され得る。TXプロセッサ 668によって生成される空間ストリームは、別個の送信機 654 TXを介して異なるアンテナ 652に与えられる。各送信機 654 TXは、送信のためにそれぞれの空間ストリームでRFキャリアを変調する。

【0047】

[0062]UL送信は、UE 650における受信機機能に関して説明した方法と同様の方法でeNB 610において処理される。各受信機 618 RXは、そのそれぞれのアンテナ 620を通して信号を受信する。各受信機 618 RXは、RFキャリア上で変調された情報を復元し、RXプロセッサ 670にその情報を与える。RXプロセッサ 670はL1レイヤを実装し得る。

【0048】

[0063]コントローラ/プロセッサ 675はL2レイヤを実装する。コントローラ/プロセッサ 675は、プログラムコードとデータとを記憶するメモリ 676に関連付けられ得る。メモリ 676はコンピュータ可読媒体と呼ばれることがある。ULでは、制御/プロセッサ 675は、UE 650からの上位レイヤパケットを復元するために、トランスポートチャネルと論理チャネルとの間の多重分離と、パケットリアセンブリと、解読と、ヘッダ復元と、制御信号処理とを行う。コントローラ/プロセッサ 675からの上位レイヤパケットはコアネットワークに与えられ得る。コントローラ/プロセッサ 675はまた、H

A R Q 動作をサポートするために A C K および / または N A C K プロトコルを使用した誤り検出を担当する。

【 0 0 4 9 】

[0064] コントローラ / プロセッサ 6 7 5、6 5 9 は、本開示のいくつかの態様に従って動作するように、それぞれ、e N B 6 1 0 および U E 6 5 0 における動作を指示し得る。たとえば、U E 6 5 0 におけるコントローラ / プロセッサ 6 5 9 および / または他のプロセッサおよびモジュールは、図 1 1 に示されている動作 1 1 0 0 および / または図 1 3 に示されている動作 1 3 0 0 を実行するか、あるいは U E にそれらの動作を実行するように指示し得る。同様に、e N B 6 1 0 におけるコントローラ / プロセッサ 6 7 5 および / または他のプロセッサおよびモジュールは、図 1 0 に示されている動作 1 0 0 0 を実行するか、あるいは e N B 6 1 0 にそれらの動作を実行するように指示し得る。

10

【 0 0 5 0 】

例示的なサブフレーム構成

[0065] 図 7 に、L T E T D D のための例示的なフレーム構造 7 0 0 を示す。図 7 に示されているように、1 0 m s 無線フレーム 7 0 2 は、等しい長さ（たとえば、5 m s ）の 2 つのハーフ・フレーム 7 0 4 からなり、各ハーフ・フレームは、1 0 個のスロット、または 8 つのスロット（たとえば、スロット 7 0 6 ）+ スペシャルサブフレーム 7 0 8 中の 3 つのスペシャルフィールド、D w P T S（ダウンリンクパイロットタイムスロット（downlink pilot time slot））と、G P（ガード期間（guard period））と、U p P T S（アップリンクパイロットタイムスロット（uplink pilot time slot））とからなる。各スロット 7 0 6 は長さが 0.5 m s であり、2 つの連続するスロットは、ちょうど 1 つのサブフレーム 7 1 0 を形成する。

20

【 0 0 5 1 】

[0066] 無線フレーム内で、L T E T D D は、ダウンリンク送信とアップリンク送信との間で複数回切り替わり、その逆も同様である。ガード期間（G P）は、ダウンリンクからアップリンクに切り替わるときに D w P T S と U p P T S との間に挿入される。G P の持続時間は、基地局から移動局へのおよびその逆の信号伝搬時間、ならびに移動局が受信することから送ることに切り替わるのに必要な時間に依存する。個々のスペシャルフィールドの長さは、ネットワークによって選択されたアップリンク / ダウンリンク構成に依存するが、3 つのスペシャルフィールドの全長は 1 m s の一定のままである。

30

【 0 0 5 2 】

[0067] L T E T D D では、送信方向は、異なるサブフレーム中で U L データおよび D L データを搬送することによって分離される。図 8 の表 8 0 0 に示されているように、7 つの可能な D L および U L サブフレーム構成がサポートされる。

【 0 0 5 3 】

[0068] テーブル 8 0 0 の列 8 0 2 に示されているように、7 つの U L / D L 構成はインデックス 0 ~ 6 によって識別される。列 8 0 6 に示されているように、サブフレーム中の「D」は D L データ送信を示し、「U」は U L データ送信を示し、「S」は、図 7 に関して上記で説明したように、スペシャルフィールド D w P T S と G P と U p P T S とを有するスペシャルサブフレームを示す。列 8 0 4 に示されているように、2 つの切替え周期性、5 m s および 1 0 m s がある。5 m s 周期性（たとえば、サブフレーム構成 0 ~ 2 および 6）の場合、図 7 に示されているように、1 つの 1 0 m s フレーム中に 2 つのスペシャルサブフレームがある。1 0 m s 周期性（たとえば、サブフレーム構成 3 ~ 5）の場合、1 つのフレーム中に 1 つのスペシャルサブフレームがある。

40

【 0 0 5 4 】

L T E における e I M T A のための 2 つのサブフレームセットの C S I フィードバック

[0069] 動的サブフレーム構成をサポートする U E は、e I M T A の場合と同様に、C S I を測定および報告するときに、いくつかの課題を有し得る。本開示の態様は、動的サブフレーム再構成をサポートすることが可能な U E による C S I 報告のために使用され得る技法を提供する。

50



## 【 0 0 5 5 】

[0070] C S I 報告を容易にするために、いくつかの規格（たとえば、L T E リリース 1 1）は、e N B が干渉状態を決定するのを助け得る測定値を U E が報告することを可能にする U E 固有な干渉測定リソース（I M R）を導入している。場合によっては、U E は、s u b f r a m e C o n f i g パラメータおよび r e s o u r c e C o n f i g パラメータなどのいくつかのパラメータに基づいて別個の I M R で構成され得る。s u b f r a m e C o n f i g パラメータは、どのサブフレームが I M R を含んでいるかをシグナリングし、一緒にコーディングされた周期性およびサブフレームオフセットを有する。r e s o u r c e C o n f i g パラメータは、どのリソース要素（R E）が、非ゼロ電力（N Z P : non-zero-power）チャネル状態情報基準信号（C S I - R S : channel state information reference signal）リソースによって占有されるか（すなわち、どのパターンが使用されるか）を識別する。

## 【 0 0 5 6 】

[0071] 従来のシステムでは、I M R スケジューリングは追加の制約を受け得る。たとえば、第 1 の制約は、1 つの U E のために構成されたすべての I M R が、特定の U E のために実際に構成されることも構成されないこともある 1 つの仮想ゼロ電力（Z P : zero-power）C S I - R S 構成のサブセットであり得るということである。第 2 の制約は、U E のために構成された各 I M R が、その U E のための少なくとも 1 つの構成された Z P C S I - R S リソースによってカバーされ得るが、U E のために構成された I M R は、必ずしも同じ Z P C S I - R S 構成によってカバーされなければならないとは限らないということである。

## 【 0 0 5 7 】

[0072] 図 9 に示されているように、第 1 の制約は、すべての I M R が 5 m s グリッド上に位置する（fall onto a 5ms grid）ことを要求する。たとえば、図 9 は、上記の第 1 の制約により、I M R が可能にされるときと、I M R が可能にされないときと、1 つのシナリオとを示している。シナリオ 1 において見られ得るように、2 つの I M R（I M R 1 および I M R 2）は、それらが両方とも同時に同じサブフレーム中に位置し、5 m s の倍数にあるときに可能にされ得る。シナリオ 2 は、I M R 1 と I M R 2 が 5 m s グリッド上に互い違いに配置される（staggered on a 5ms grid）とき、それらが可能にされることを示す。たとえば、I M R 1 は 0 m s に位置し（falls at 0ms）、I M R 2 は 5 m s に位置する。シナリオ 3 は、2 つの I M R が 5 m s グリッド上に位置しないので、I M R が可能にされないときの一例を示している。

## 【 0 0 5 8 】

[0073] 上述のように、e I M T A を使用すると、実際のトラフィックニーズに基づいて、および / または干渉管理のために、T D D D L / U L サブフレーム構成を動的に適応させることが可能であり得る。たとえば、短い持続時間中に、ダウンリンク上で大きいデータバーストが必要とされる場合、サブフレーム構成は、たとえば、6 つの D L サブフレームと 4 つの U L サブフレームとを有する構成 # 1 から、9 つの D L サブフレームと 1 つの U L サブフレームとを有する構成 # 5 に変更され得る。場合によっては、T D D 構成の適応は 6 4 0 m s よりも遅くならないことが予想される。極端な場合、その適応は 1 0 m s 程度に高速になり得る。

## 【 0 0 5 9 】

[0074] 場合によっては、e I M T A の場合、2 つのサブフレームセットのいずれかのための別個のチャネル状態情報（C S I）測定 / 報告を可能にするために、最高 2 つのサブフレームセットが U E 固有にシグナリングされ得る。しかしながら、2 つのタイプのサブフレームについての C S I 測定 / 報告をサポートするために、（すべての I M R が 5 m s グリッド上に位置するという）第 1 の I M R 制約は、e I M T A の場合、取り除かれる必要があり得る。したがって、少なくとも e I M T A 対応 U E の場合、この制約がいつ取り除かれ得るかを定義する必要があり得る。

## 【 0 0 6 0 】

10

20

30

40

50

[0075]図 10 に、本開示の態様による、ワイヤレス通信のための例示的な動作 1000 を示す。態様によれば、動作 1000 は、基地局（たとえば、e ノード B）によって実行され得る。

【0061】

[0076]動作 1000 は、1002 において、ユーザ機器（UE）に第 1 のアップリンク / ダウンリンク（UL / DL）サブフレーム構成をシグナリングすることから開始する。1004 において、BS は、第 2 の UL / DL サブフレーム構成を動的にシグナリングする。1006 において、BS は少なくとも第 1 および第 2 の干渉測定リソース（IMR）で UE を構成し、ここにおいて、第 1 および第 2 の IMR のうちの少なくとも 1 つは、IMR が周期的に発生するサブフレームに限定されるという制約を受けない。

10

【0062】

[0077]図 11 に、本開示の態様による、ワイヤレス通信のための例示的な動作 1100 を示す。態様によれば、動作 1100 は、UE によって実行され得る。

【0063】

[0078]動作 1100 は、1102 において、基地局（BS）と通信するための第 1 のアップリンク / ダウンリンク（UL / DL）サブフレーム構成のシグナリングを受信することから開始する。1104 において、UE は、BS から第 2 の UL / DL サブフレーム構成の動的シグナリングを受信する。1106 において、UE は少なくとも第 1 および第 2 の干渉測定リソース（IMR）の構成を受信し、ここにおいて、第 1 および第 2 の IMR のうちの少なくとも 1 つは、IMR が周期的に発生するサブフレームに限定されるという制約を受けない。

20

【0064】

[0079]本開示のいくつかの態様によれば、IMR に対する 1 つまたは複数の制約は取り除かれ得る。たとえば、場合によっては、IMR が 5 ms グリッドに従わなければならないという制約は、e IMTA 対応 UE について取り除かれ得る。場合によっては、この制約は、（UL から DL およびその逆に動的に変更され得る指示をもつサブフレームを指す）フレキシブルサブフレーム中でのみ取り除かれ得る。しかしながら、場合によっては、レガシーユーザを適用させるのを助けるために、すべての IMR が 5 ms グリッド上に位置することを必要とし続けることは有益であり得る。

【0065】

30

[0080]しかしながら、レガシー UE によって認識されないフレキシブルサブフレーム 1202 など、SIB1 シグナリングされた構成中で（in a SIB1 signaled configuration）DL サブフレームに指定されないサブフレーム中に第 2 の IMR（IMR - 2）を配置することが可能であり得る。たとえば、図 12 は、5 ms グリッドに従わないフレキシブルサブフレーム 1202 中に IMR - 2 を配置する（place）ことが可能であり得ることを示している。いくつかの態様によれば、非 SIB1 サブフレーム中に IMR - 2 を配置することは、e IMTA をサポートすることが可能な UE に 2 つの IMR 構成だけが適用することを保証し得る。

【0066】

C S I 報告衝突処理

40

[0081]上述のように、e IMTA は、チャネル状態情報（CSI）測定および報告において問題を生じ得る。

【0067】

[0082]たとえば、いくつかのサブフレーム構成および CSI 報告構成の場合、異なる CSI 報告プロセスのための CSI 測定値が（本明細書では「衝突」と呼ぶ）同じ UL サブフレーム中で報告されるように構成され得る。これは、たとえば、1 つの UL サブフレーム中で単一の報告のみが送られ得るシナリオにおいて問題を提示し得る。本開示の態様は、どの測定値が報告されるべきであるかに優先度を付けるための技法を提供する。

【0068】

[0083]さらに、様々な理由により、UE は、CSI 測定を実行するために有効な DL サ

50

ブフレームを検出することができないことがある（または有効なDLサブフレームがないことがある）。たとえば、eIMTAにより、CSI測定のためのリソースを搬送するように構成されたDLサブフレームは、ULサブフレームに動的に変更され得る。本開示の態様は、現在のサブフレーム構成が現在のCSI構成に一致せず（または「衝突し」）、それにより「衝突」とも考えられ得るような場合に、CSIをどのように報告すべきかを決定するための技法を提供する。

#### 【0069】

[0084]図13に、本開示の態様による、ワイヤレス通信のための例示的な動作1300を示す。動作1300は、たとえば、eIMTAをサポートすることが可能なUEによって実行され得る。

10

#### 【0070】

[0085]動作1300は、1302において、基地局(BS)と通信するための第1のアップリンク/ダウンリンク(UL/DL)サブフレーム構成のシグナリングを受信することから開始する。1304において、UEは、少なくとも2つのサブフレームセットを示す少なくとも1つのチャネル状態情報(CSI)報告構成のシグナリングを受信し、ここで、各サブフレームセットは干渉測定リソース(IMR)構成に関連する。1306において、UEは、アップリンクサブフレーム中の少なくとも2つのサブフレームセットについてのCSI報告の衝突を検出する。1308において、UEは、アップリンクサブフレーム中のCSI報告のために少なくとも2つのサブフレームセットからの1つのサブフレームセットに優先度を付ける。1310において、UEは、優先度付けに基づいてアップリンクサブフレーム中でCSIを報告する。

20

#### 【0071】

[0086]上記で説明したように、2つのサブフレームセットについての周期CSI報告も、eIMTAの下でサポートされ得る。いくつかの態様によれば、2つのサブフレームセットについてのCSI報告間の衝突がある（すなわち、各サブフレームセットが、同じULサブフレーム中で報告するように構成された）とき、サブフレームセットのうちの一方は、報告するための優先度を与えられ得る。

#### 【0072】

[0087]場合によっては、（再構成され得る「フレキシブル」サブフレームとは対照的に、DLサブフレームとして「固定された」サブフレーム上で測定されるべきCSIをもつ）固定サブフレームセットCSIは、より高い優先度を与えられ得る。これは、PUCCH上で送られる周期CSI報告の場合、1つの報告のみがPUCCH上で送信され得、すべての他の報告がドロップされ得るので、必要であり得る。

30

#### 【0073】

[0088]本開示の態様は、周期CSIプロセス間の衝突が検出されたときの報告に優先度を付ける異なるオプションを提供する。たとえば、コンポーネントキャリア(CC: component carrier)内の衝突の場合、優先度付けは、以下の順序に基づいて実行され得る。最初に報告タイプ（たとえば、RI/PTI/CQI）を考慮し、次いでCSIサブフレームセット（たとえば、CSI0またはCSI1）を考慮し、次いでCSIプロセスインデックスを考慮する。様々なCCにわたる衝突の場合、キャリアアグリゲーション(CA: carrier aggregation)を用いたeIMTAのために、優先度付けはまた、特定のCCを考慮し得る。たとえば、CA eIMTAのための優先度付けは、以下の順序に基づいて実行され得る。最初に報告タイプを考慮し、次いでCSIサブフレームセットを考慮し、次いでCSIプロセスインデックスを考慮し、最終的にCCインデックスを考慮する。いくつかの態様によれば、固定サブフレームについてのCSI報告はCSIプロセスID #0と見なされ得、それにより、既存の衝突処理ルールがeIMTAのために再利用されることを可能にし得る。

40

#### 【0074】

[0089]図14に、CSI報告のための2つのサブフレームセット間の衝突の一例を示す。図示の例では、第1のサブフレームセット（サブフレームセット1）は10ms報告周

50

期性を有し、サブフレーム 2、12、22 などにおいて CSI 測定値を報告するために構成される。第 2 のサブフレームセット (サブフレームセット 2) は 5 ms CSI 報告周期性を有し、サブフレーム 2、7、12、22 などにおいて CSI 測定値を報告するように構成される。したがって、図示のように、サブフレームセット 1 および 2 は両方とも、サブフレーム 2、12 および 22 中で CSI を報告するように構成され、その結果、衝突を生じる。

【0075】

[0090] 上述のように、両方のサブフレームセットが同じ UL サブフレーム中で CSI 測定値を報告するように構成されたとき、サブフレームセット間の衝突が発生し得る。この衝突を解決するために、UE は、衝突する UL サブフレーム中の CSI 報告のためにどのサブフレームセットが優先度を付けられるべきかを決定し得る。1 つのサブフレームセットのみ (たとえば、サブフレームセット 2) が特定の UL サブフレーム (たとえば、UL SF 7、17、および 27) 内で CSI 測定値を報告するように構成されたとき、衝突は発生せず、UE は、そのサブフレームセットについての CSI を報告し得る。

10

【0076】

[0091] 周期 CSI (P - CSI : periodic CSI) 報告と非周期 CSI (A - CSI : aperiodic CSI) (すなわち、非周期) 報告の両方のために、UE は、CSI を測定するために (基準信号のために割り振られたリソースをもつ) 有効な DL サブフレームを必要とし得る。たとえば、DL サブフレームが、特定の UE のためのダウンリンクサブフレームとして構成され、その特定の UE のための構成された測定ギャップ内に入らず、CSI 報告にリンクされた CSI サブフレームセットの要素である場合、その DL サブフレームは有効であると見なされ得る。いくつかの態様によれば、サービングセル中に CSI 測定のための有効なダウンリンクサブフレームがない場合、(その CSI が報告されていたであろう) 対応するアップリンクサブフレーム中でサービングセルについての CSI 報告が省略され得る。

20

【0077】

[0092] いくつかの態様によれば、通常 TDD 動作の場合、DL サブフレームが有効であるかどうかを決定するパラメータは半静的に構成され得、それにより、eNB と UE との間のあいまいさを低減する。しかしながら、TDD eIMTA の場合、UL と DL との間のサブフレーム指示の動的構成があり得る。UE が動的構成のためのレイヤ 1 (L1) シグナリングを復号することができない場合、サブフレーム指示に関して、eNB と UE との間に不整合 (misalignment) が発生し、したがって、CSI 測定および報告に影響を及ぼし得る。たとえば、eNB は、UE が CSI 測定を行うことを予想される少なくとも 1 つの DL サブフレームを含む新しいサブフレーム構成を UE に動的にシグナリングし得る。しかしながら、UE が動的シグナリングを適切に復号することができない場合、UE は、少なくとも 1 つの DL サブフレームが UL サブフレームであると考えることがあり、CSI 測定を行うことができないことがある。

30

【0078】

[0093] TDD eIMTA の場合、CSI 測定のための様々な手法が使用され得る。1 つの手法によれば、UE が再構成の明示的 L1 シグナリングを正しく復号し、有効な UL - DL 構成を検出したとき、UE は、再構成の明示的 L1 シグナリングによって DL サブフレームまたはスペシャルサブフレームとして示されるサブフレーム内でのみ CSI を測定し得る。一方、UE が無線フレームのための有効な UL - DL 構成を搬送する L1 シグナリングを検出できなかった場合、UE は、SIB 構成によって DL サブフレームまたはスペシャルサブフレームとして示されるサブフレーム内でのみ CSI を測定し得、それは、フォールバック動作と見なされ得る (すなわち、UE が L1 シグナリングを復号することができないとき、UE は SIB 構成にフォールバックし得る)。

40

【0079】

[0094] しかしながら、CSI 報告に対する上記の手法は、UE が有効な UL / DL 構成を搬送する L1 シグナリングを検出しない場合、フレキシブル DL サブフレームについて

50

の C S I が省略されることになり得る。これは、U E によって報告される C S I を予想するが、（たとえば、上記で説明したフォールバック動作により）U E から C S I 報告を実際に受信しない e N B に対してあいまいさを生じ得る。これはまた、P U S C H データレートマッチングが、C S I 報告のためにアグリゲートされた C S I ビットの数とアグリゲートされた C C の数とに大いに依存するので、特に、1 つの U E のために構成された複数のコンポーネントキャリア（C C）の場合、C S I が P U S C H 上に多重化されたとき、P U S C H 復号に影響を及ぼし得る。

#### 【 0 0 8 0 】

[0095]いくつかの態様によれば、U E は、測定すべき有効な D L サブフレームを有しないとき、どのように報告すべきかを決定するためのアクションを取り得る。たとえば、U E は、C S I D L 参照サブフレーム（a CSI DL reference subframe）が D L から U L に再構成されたとき、周期 C S I 報告のために古い C S I 測定値を送り得る。これはまた、非周期 C S I（A - C S I）報告に適用され得る。たとえば、U E は、U E が A - C S I トリガを受信し、C S I 測定参照サブフレームが D L から U L に変更されたとき、前の C S I 値または範囲外（O O R : out-of-range）C S I 値を報告し得る。しかしながら、これは、C S I 報告のための既存の条件（すなわち、C S I 測定値が有効な D L サブフレームに基づくという条件）に違反し得る。したがって、もっぱら C S I 報告を、C S I 測定のために使用される有効な D L サブフレームの条件に基づかせないことは有益であり得る。

#### 【 0 0 8 1 】

[0096]いくつかの態様によれば、U E は、C S I 測定のための有効な D L サブフレームがないとき、C S I 報告を省略するか、前の C S I 測定値を報告するか、または範囲外（O O R）である値で報告し得る。この新しい定義は、D L H A R Q 参照構成（DL HARQ reference configuration）が C C 固有であるマルチ C C（すなわち、複数のコンポーネントキャリア）にも拡張され得る。R R C 構成された D L H A R Q 参照構成から C S I 測定のための有効な D L サブフレームを決定することは、D L 参照構成が半静的に構成されるので、U E フォールバック動作中の C S I 報告に関して e N B と U E との間の整合（alignment）を与え得る。

#### 【 0 0 8 2 】

[0097]図 1 5 に、本開示のいくつかの態様による、C S I 測定のために発生する衝突と、C S I 報告のための有効な D L サブフレームが存在するかどうかを U E がどのように決定し得るかとの一例を示す。

#### 【 0 0 8 3 】

[0098]図示の例では、サブフレーム（S F）0、1、5、および 6 が固定 D L S F であり、S F 2 および 7 が固定 U L S F であると仮定する。例では、残りのサブフレームが、動的インジケータに応じて U L または D L であり得るフレキシブル S F であるとさらに仮定する。いくつかの態様によれば、フレーム n において、U E は、D L S F 0 中のフレーム n についての動的インジケータを検出し、適切に復号し得る。U E は、次いで、フレキシブル D L S F 3 中で測定された C S I をもつ A - C S I を U L S F 7 中に報告し得る。

#### 【 0 0 8 4 】

[0099]さらなる態様によれば、フレーム n + 1 において、U E は、動的インジケータを復号することができないことがあり、S I B フォールバック動作に入り得、ただし、フレキシブル S F 3 は、U L であると仮定され得るが、それは、実際は e N B によって D L として使用される。この事例では、U E は、C S I 報告のための有効な D L サブフレームがないと仮定し得る。e N B によって（S F 3 上の C S I 測定のための）C S I 報告が要求されるが、有効な D L サブフレームが存在しないので、既存の C S I 報告条件に基づいて、U E は、S F 7 中にその C S I 報告を省略し得る。

#### 【 0 0 8 5 】

[0100]しかしながら、いくつかの態様によれば、図 1 4 に示されているように、S F 3

がDL HARQ参照構成2に基づいてCSI報告のための有効なDLサブフレームであるので、UEはSF7中でCSIを報告すると知り得る。したがって、CSI報告のための有効なDLサブフレームが存在しない場合でも、UEは、依然として、SF3で取られるCSI測定値ではなく（たとえば、古いまたはOORである測定値をもつ）CSI報告を送信し得る。

【0086】

[0101]図16に、UEがeIMTAによりCSI報告のための有効なDLサブフレームをどのように欠くことがあるかをさらに示す。図14に示された例の場合と同様に、図16に示された例は、サブフレームセット2についてのCSI測定がサブフレーム3および8中で行われる（IMR2はSF3およびSF8中にある）ように構成されたと仮定する。この例はまた、DL HARQ参照構成がサブフレーム構成2（DSUDDDSUDD）に基づくものと仮定する。

【0087】

[0102]第1のフレーム1602において、SF0～9中でダッシュによって示されるように、UEは、動的インジケータ（すなわち、L1の動的にシグナリングされたeIMTA構成（an L1 dynamically signaled eIMTA configuration））をまだ受信していないことがある。この場合、UEは、衝突が発生したかどうかと、有効なDLサブフレームが存在するかどうかとを決定するために、SIB1構成に依拠し得る。フレーム1602に示されているように、SIB1構成とDL HARQ参照構成の両方は、サブフレーム3および8をダウンリンクサブフレームとして示す。したがって、この事例では、UEは、CSI測定のための有効なDLサブフレームを有する（それにより、衝突がないと見なされ得る）。したがって、UEは、サブフレーム3および8中でCSIを測定し、その後、それらの測定値に基づいてCSIを報告し得る（たとえば、SF7およびSF12中でそれぞれ報告し得る）。

【0088】

[0103]しかしながら、フレーム1604において、UEは、（たとえば、SF構成#6を示す）eIMTAサブフレーム構成を受信し、適切に復号する。この場合、再構成は、SF3とSF8とをDLからULに変更した。その結果、UEは、CSI報告のための有効なDLサブフレームを有しない。したがって、UEは（動的SF構成がCSI報告構成と衝突するので）これを衝突と見なし、それに応じて報告し得る（たとえば、報告を省略するか、前の測定値を報告するか、またはOOR値を報告する）。

【0089】

[0104]場合によっては、UEは、有効なDLサブフレームが再び検出されるまで、このようにして報告し続け得る。たとえば、UEは、CSI測定のための衝突が存在するかどうかと、有効なDLサブフレームが存在するかどうかとを決定するためにeIMTA構成に依拠し得る。後のフレーム1604に示されているように、eIMTA構成は、サブフレーム3および8をDLサブフレームに再び変更し得る（たとえば、再びTDD構成#2に戻して変更し得る）。その結果、UEは、有効な現在測定値を再び報告し得る。

【0090】

[0105]開示したプロセスにおけるステップの特定の順序または階層は、例示的な手法の一例であることを理解されたい。設計上の選好に基づいて、プロセス中のステップの特定の順序または階層は再構成され得ることを理解されたい。さらに、いくつかのステップは組み合わせられるかまたは省略され得る。添付の方法クレームは、様々なステップの要素を例示的な順序で提示したものであり、提示された特定の順序または階層に限定されるものではない。

【0091】

[0106]その上、「または」という用語は、排他的な「または」ではなく、包括的な「または」を意味するものとする。すなわち、別段に規定されていない限り、または文脈から明らかでない限り、たとえば、「XはAまたはBを採用する」という句は、自然包括的並べ替えのいずれかを意味するものとする。すなわち、たとえば、「XはAまたはBを採用

10

20

30

40

50

する」という句は、XがAを採用する場合、XがBを採用する場合、またはXがAとBの両方を採用する場合のいずれによっても満たされる。さらに、本出願および添付の特許請求の範囲で使用する冠詞「a」および「an」は、別段の規定がない限り、または単数形を示すことが文脈から明白でない限り、概して「1つまたは複数」を意味するものと解釈すべきである。項目のリスト「のうちの少なくとも1つ」を指す句は、個々のメンバーを含む、それらの項目の任意の組合せを指す。一例として、「a、b、またはcのうちの少なくとも1つ」は、a、b、c、a - b、a - c、b - c、およびa - b - c、ならびに同じメンバーのうちの複数を含むそれらの項目の任意の組合せ（たとえば、a a、b b、c c、a a - b など）を包含するものとする。

【0092】

10

[0107]以上の説明は、当業者が本明細書で説明した様々な態様を実施できるようにするために提供したものである。これらの態様に対する様々な変更は当業者には容易に明らかであり、本明細書で定義された一般原理は他の態様に適用され得る。したがって、特許請求の範囲は、本明細書に示された態様に限定されるものではなく、特許請求の言い回しに矛盾しない全範囲を与えられるべきであり、単数形の要素への言及は、そのように明記されていない限り、「唯一無二の」を意味するものではなく、「1つまたは複数の」を意味するものである。別段に明記されていない限り、「いくつか」という用語は1つまたは複数を含む。当業者に知られている、または後に知られることになる、本開示全体にわたって説明した様々な態様の要素のすべての構造的および機能的均等物は、参照により本明細書に明確に組み込まれ、特許請求の範囲に包含されるものである。さらに、本明細書に開示したいかなることも、そのような開示が特許請求の範囲に明示的に具陳されているかどうかにかかわらず、公に供するものではない。いかなるクレーム要素も、その要素が「ための手段」という句を使用して明示的に具陳されていない限り、ミーンズプラスファンクションとして解釈されるべきではない。

20

【0093】

[0108]上記で説明した方法の様々な動作は、対応する機能を実行することが可能な任意の好適な手段によって実行され得る。それらの手段は、限定はしないが、回路、特定用途向け集積回路（ASIC）、またはプロセッサを含む、様々な（1つまたは複数の）ハードウェアおよび/またはソフトウェア構成要素および/またはモジュールを含み得る。

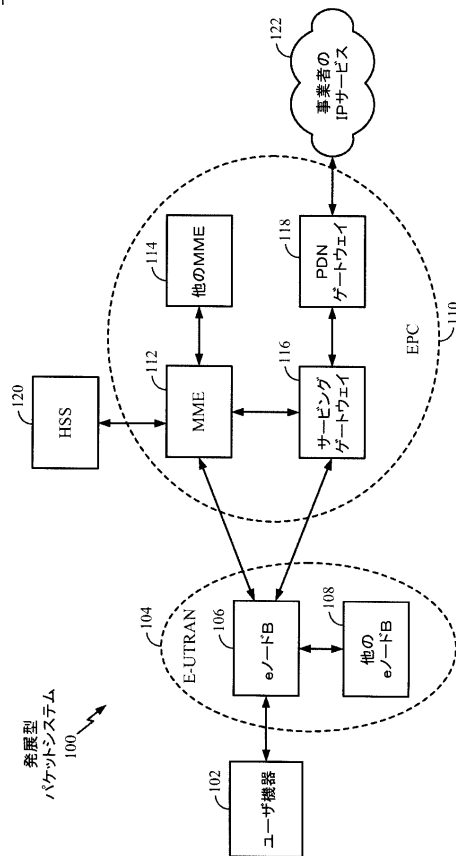
【0094】

30

[0109]たとえば、受信するための手段は、図6に示されたユーザ機器650の受信機（たとえば、受信機654RX）および/あるいは（1つまたは複数の）アンテナ652を備え得る。検出するための手段および優先度を付けるための手段は、ユーザ機器650のRXプロセッサ656および/またはコントローラ/プロセッサ659などの1つまたは複数のプロセッサを含み得る処理システムを備え得る。報告するための手段は、ユーザ機器650の送信機（たとえば、送信機654TX）および/または（1つまたは複数の）アンテナ652を備え得る。

【 図 1 】

图 1



【 図 2 】

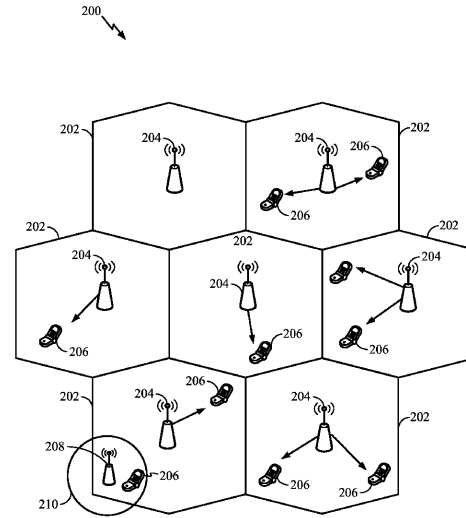


FIG. 2

【 図 3 】

图 3

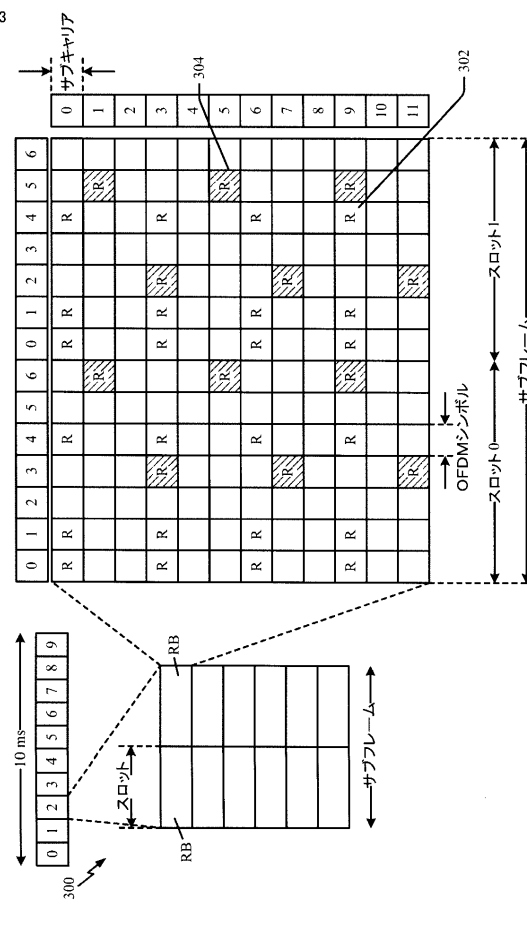


FIG. 3

【 図 4 】

图 4

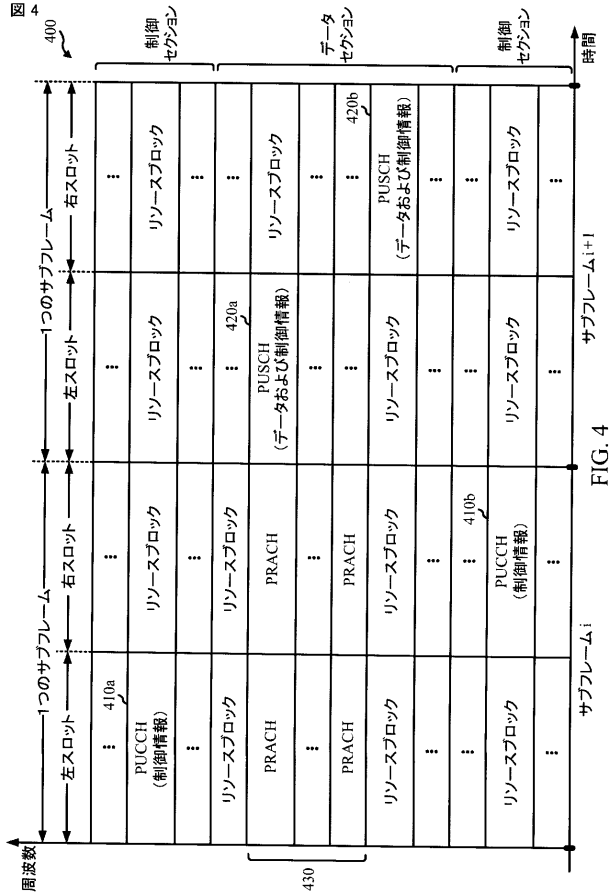


FIG. 4



【 図 5 】

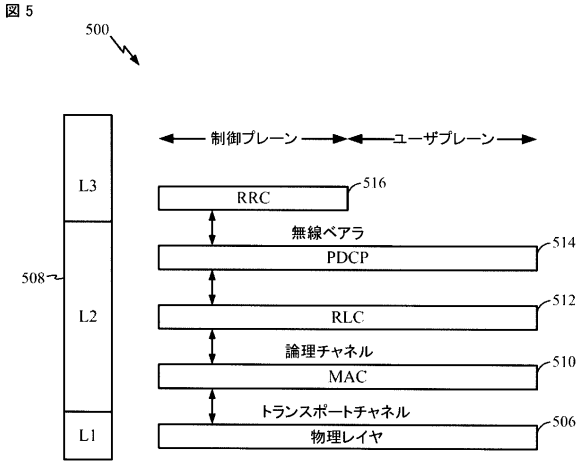


FIG. 5

【 図 6 】

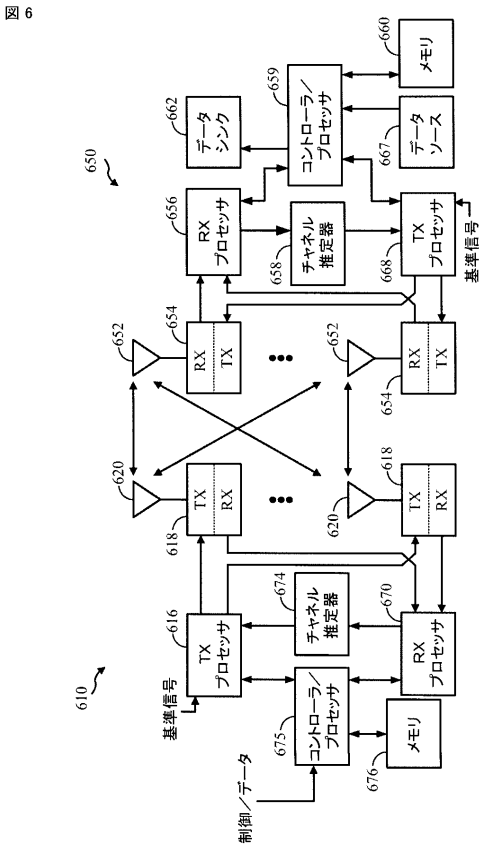


FIG. 6

【 図 7 】

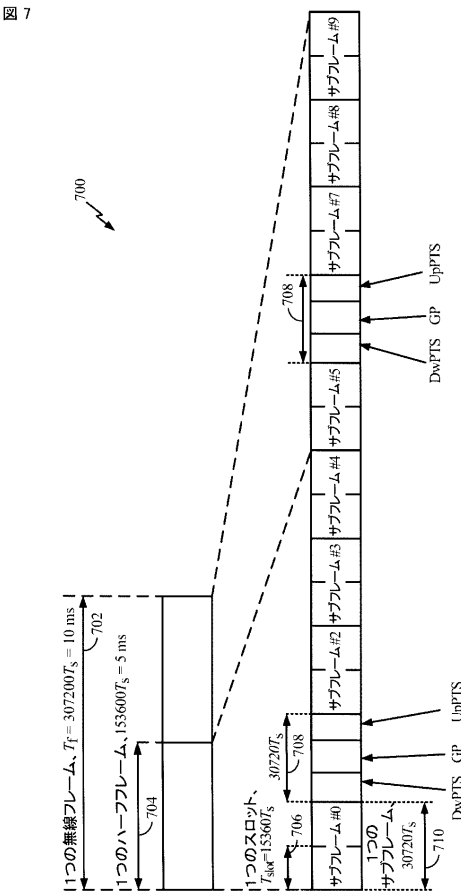


FIG. 7

【 図 8 】

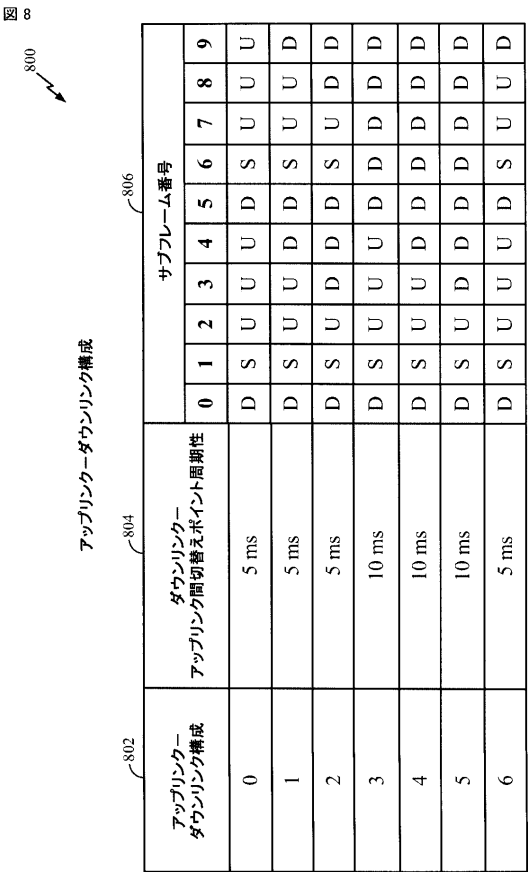


FIG. 8

【図 9】

図 9

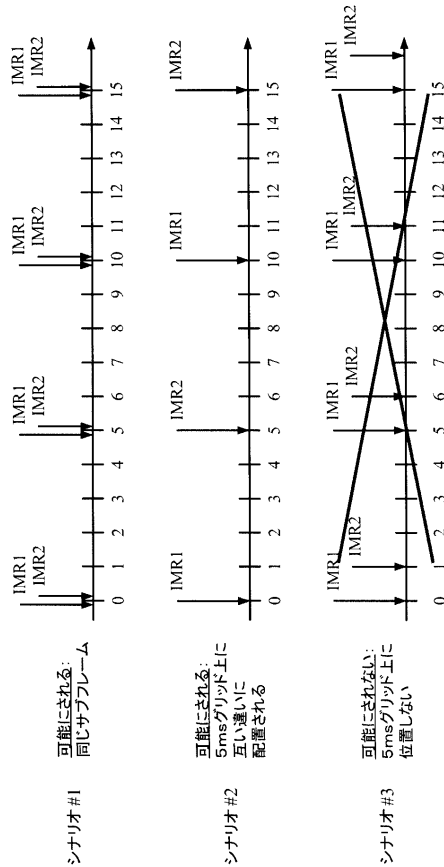


FIG. 9

【図 10】

図 10

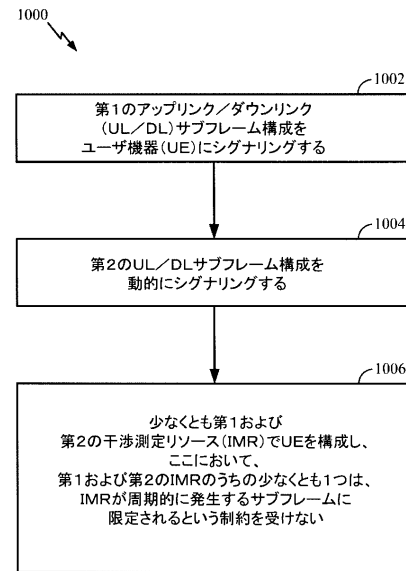


FIG. 10

【図 11】

図 11

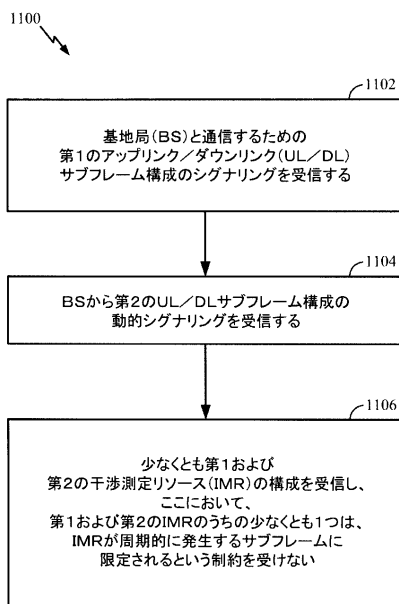


FIG. 11

【図 12】

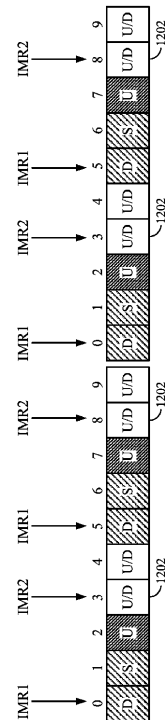


FIG. 12

【図 13】

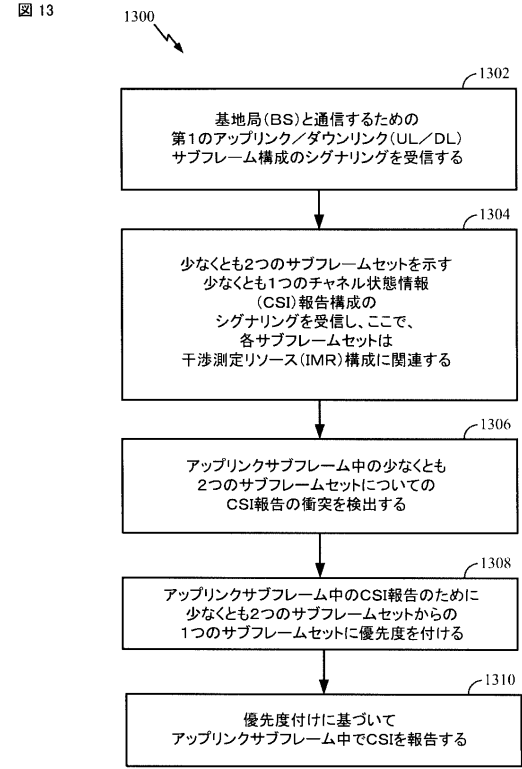


FIG. 13

【図 14】

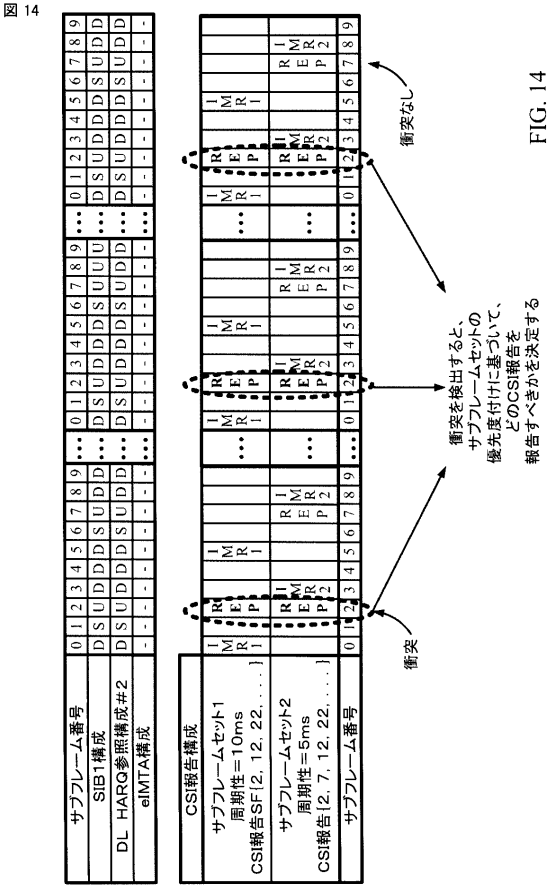


FIG. 14

【図 15】

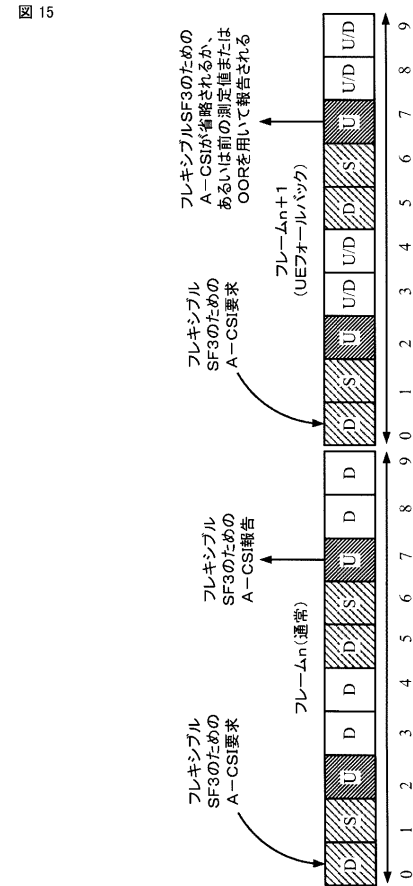


FIG. 15

【図 16】

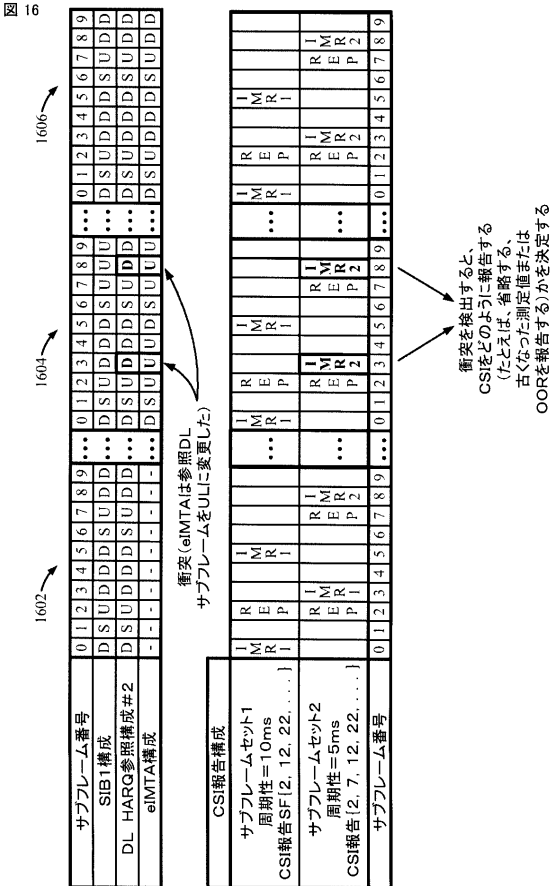


FIG. 16

## 【 国 際 調 査 報 告 】

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/CN2015/070179

<b>A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER</b> H04L 1/00(2006.01)i; H04B 7/06(2006.01)n  According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
<b>B. FIELDS SEARCHED</b>  Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) H04L; H04B  Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) CNABS, CNTXT, CNKI, VEN: signaling, subframe, channel state information, CSI, interference measurement resource, IMR, collision, priorit+		
<b>C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT</b>		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 2013169026 A1 (SAMSUNG ELECTRONICS CO., LTD.) 14 November 2013 (2013-11-14) the whole document	1-26
A	CN 103391124 A (ZTE CORPORATION) 13 November 2013 (2013-11-13) the whole document	1-26
A	CN 103490865 A (CHINA ACADEMY OF TELECOMM TECH) 01 January 2014 (2014-01-01) the whole document	1-26
A	US 2013343301 A1 (QUALCOMM INC.) 26 December 2013 (2013-12-26) the whole document	1-26
<input type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: “A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed “T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art “&” document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search  <b>19 March 2015</b>		Date of mailing of the international search report  <b>01 April 2015</b>
Name and mailing address of the ISA/CN <b>STATE INTELLECTUAL PROPERTY OFFICE OF THE P.R.CHINA(ISA/CN)</b> <b>6,Xitucheng Rd., Jimen Bridge, Haidian District, Beijing 100088, China</b> Facsimile No. (86-10)62019451		Authorized officer  <b>YANG,Xiaoman</b>  Telephone No. (86-10)62411492

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**  
**Information on patent family members**

International application No.

**PCT/CN2015/070179**

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)			Publication date (day/month/year)
WO	2013169026	A1	14 November 2013	CN	104272606	A	07 January 2015
				EP	2662987	A3	25 June 2014
				EP	2662987	A2	13 November 2013
				US	2013301448	A1	14 November 2013
CN	103391124	A	13 November 2013	Non e			
CN	103490865	A	01 January 2014	WO	2013185590	A1	19 December 2013
US	2013343301	A1	26 December 2013	WO	2013192482	A1	27 December 2013

## フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), EP(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US

(72)発明者 チェン、ワンシ

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 2 1 2 1 - 1 7 1 4、サン・ディエゴ、モアハウス・ドライブ 5 7 7 5

(72)発明者 ウェイ、チャオ

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 2 1 2 1 - 1 7 1 4、サン・ディエゴ、モアハウス・ドライブ 5 7 7 5

(72)発明者 ワン、ネン

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 2 1 2 1 - 1 7 1 4、サン・ディエゴ、モアハウス・ドライブ 5 7 7 5

(72)発明者 シュ、ハオ

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 2 1 2 1 - 1 7 1 4、サン・ディエゴ、モアハウス・ドライブ 5 7 7 5

(72)発明者 ガール、ピーター

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 2 1 2 1 - 1 7 1 4、サン・ディエゴ、モアハウス・ドライブ 5 7 7 5

Fターム(参考) 5K034 EE03 MM18 MM22

5K067 AA03 AA23 DD11 EE02 EE10 FF16 LL05 LL11